

vol.31 mar. 2019



拓海

「海」を切り開く匠の業と心

CONTENTS

2018年度 旅立ち	
卒業特集	
卒業生・修了生のみなさんへ	3
卒業生・修了生から在学生へ	7
卒業、修了する先輩留学生から在学生へ	12
退職の年を迎えて	14
新任教員の紹介	20
大学院紹介	22
グローバル人材育成プログラム	26
海外留学体験記	27
業界で活躍しているOB・OGの方々	28
海鷹祭の実施報告	30
課外活動報告	31
ニュース & トピックス	32
学生相談室からのお知らせ	38
お知らせ	40

◆2018年度 旅立ち

■卒業特集

◎卒業生・修了生のみなさんへ

未来を拓く君たちのために	竹内 俊郎…… 3
卒業生の皆さんへ	佐藤 秀一…… 4
卒業される皆さんへ	塚本 達郎…… 5
Good luck!	田中 祐志…… 5
大学院修了生の皆さんへ	井関 俊夫…… 6

◎卒業生・修了生から在学生へ

縛られすぎない就職活動	古川 美奈…… 7
拓海寄稿	木下 拓海…… 7
新しいことへの挑戦	塩賀 彬裕…… 8
在学生へのメッセージ	吉田 拓海…… 8
大学生活をより良くするために	宇田慎太郎…… 9
充実した大学生活を	田島 昂輝…… 9
興味があることを積極的にやろう	小日向理早…… 10
学生生活を謳歌していますか!?	潮 夏希…… 10
研究のモチベーション	小島 智恵…… 11

◎卒業、修了する先輩留学生から在学生へ

勉強は自分を探す!未来を探す!可能性を探す!	呂 健…… 12
留学生の皆さんへ	崔 忠日…… 12

■退職の年を迎えて

原点	酒井 昇…… 14
退職の年を迎えて	鈴木 徹…… 14
教員(研究者)生活を振り返って	馬場 治…… 15
君子之於学也、蔵焉脩焉、息焉游焉	稲石 正明…… 15
退職を迎えて	岩本 勝美…… 15
新しいことに挑戦を!	刑部 真弘…… 16
退職を迎えるにあたって	橋高 勇…… 16
退職にあたり	下野 孝一…… 17
退職の年を迎えて	田中 洋平…… 17
ありがとうございました	河野 博…… 17
折々の記	和泉 充…… 18
海に生き続ける	青山 千春…… 18
20年間の思い出	風間 富一…… 19

■新任教員の紹介

食品生産科学部門	松本 隆志…… 20
海洋政策文化学部門	大石 太郎…… 20
海洋政策文化学部門	松井 隆宏…… 21
海洋環境科学部門	牧田 寛子…… 21

■大学院紹介

海洋生命資源科学専攻	廣野 育生…… 22
海運ロジスティクス専攻	遠藤 伸明…… 23
応用環境システム学専攻	池谷 毅…… 25

■グローバル人材育成プログラム

シンガポールでの経験	藤田 冴英…… 25
海外探検隊感想記(ベトナム隊)	田村 智紀…… 26

■海外留学体験記

海外インターンシップに参加して	南井 秀孝…… 27
海外インターンシップに参加して	西亀 貴之…… 27

■業界で活躍しているOB・OGの方々

水産業界での品質管理の仕事	田辺菜穂子…… 28
“きっかけ”から広がる世界	浅井 隆…… 28

■海鷹祭の実施報告

海鷹祭を終えて	西見 耕汰…… 30
---------	------------

■課外活動報告

ダンス部	…… 31
越中島硬式庭球部	…… 31

■ニュース&トピックス

- ・「平成30年度父母等懇談会」を開催しました…… 32
- ・「海の日」記念行事を開催しました…… 33
- ・平成30年度9月期
学生表彰授与式を行いました…… 33
- ・平成30年度9月期
学位記・修了証書授与式を行いました…… 34
- ・平成30年度10月期
大学院入学式を行いました…… 34
- ・第56次航海(遠洋航海)、第22次「海鷹丸」
南極海観測航海に出港しました…… 35
- ・平成30年度国際交流懇談会を開催しました…… 36
- ・サークルリーダーシップ研修会を
開催しました…… 37

■学生相談室からのお知らせ

- ・学生相談室について…… 38
- ・学生相談体制について…… 39

■お知らせ

- ・就職支援体制について…… 40
- ・図書館からのお知らせ…… 40
- ・国立博物館および
国立美術館の利用について…… 41
- ・国立劇場の利用について…… 41
- ・緊急時連絡システムについて…… 42
- ・ネットワーク障害防止のための注意事項…… 44
- ・学生関係窓口からのお知らせ…… 45
- ・悪質な就活商法に関する注意喚起…… 45
- ・東京海洋大学校友会について…… 46

2018年度 旅立ち

卒業特集

卒業生、 修了生のみなさんへ

未来を拓く君たちのために

学長
竹内俊郎

卒業生、修了生の皆さん、ご卒業、ご修了おめでとうございます。皆さんは本学でそれぞれ学んできたわけですが、自分の力だけではここまでこれなかったのではないのでしょうか？これまでお世話になったご両親など保護者の方々や先生方に対して、何らかの形でお礼の気持ちを手紙やはがき、メールで是非お伝え下さい。

学部生の皆さん、4年間の学生生活はいかがでしたか？思う存分学ぶことができたでしょうか？社会に出た時、もっと勉強しておけばよかったと思うかもしれません。その時には、学生時代の授業を思い出して、学び直しましょう。慌てることはありません。学び直せばいいのです。後述しますが、人生100年時代です。大学を有効にお使いください。図書館はいつも皆さんに開放していますし、ご指導いただいた先生方も快く迎えてくれることでしょう。3年前にTHE（タイムズハイヤーエデュケーション）から小規模大学世界ランキング20位の記念としていただいた、小さな大学 #tinyversity (tiny university) のロゴの通り、我が大学は、アットホームな大学で、面倒見が良い大学です。是非、いつでも訪ねて来て下さい。

水産専攻科の皆さん、長期航海で一回りも二回りも成長できたでしょうか。昨年、海鷹丸出港式の折、私は「リスク」に関して次のお話をしました。覚えていますか？日本の歴史学者の宮崎正勝氏が「海図の世界



史」で述べていたことですが、「リスク」という言葉は、現在「危険」、「予想通りにいかない可能性」の意味で使用されていますが、そもそもアラビア語に由来する航海用語で、「海図のない航海」を意味する言葉だそうです。海図のない航海を想像してみてください。いかに無謀で危険に満ちた航海になるかは、皆さんなら容易に想像できると思います。現場において、リスクを完全に取り除くことは不可能です。安全というものには存在しません。そのため、リスクと上手に付き合う必要があります。何かを成し遂げるには、リスクに対処するための準備、訓練が欠かせません。今回の遠洋航

海実習では、時々刻々と変化する航海環境下でしたので、リスク処理を習得する最高の環境だったのではないのでしょうか。自ら解決する機会がありましたか？

皆さんは今回、インド洋でのマグロはえ縄実習や南極海域での観測調査も行いました。これら、乗船実習を通して経験し習得したことは、これからの人生において価値ある財産、生きていく力になることを願っています。頑張ってください。

次に述べることは、2015年の拓海に、さらに昨年10月の大学院の入学式の式辞でも一部述べた内容ですが、大学院を修了する皆さんにとっては大変重要なことと思い、再度書くことにします。

皆さんは教科書に書かれている内容を疑ったことがあるでしょうか？大学の教科書、特に専門書についてはそのまま信じてはいけません。常識といわれていることが、覆されることがよくあるからです。疑いの目で見ること、新たな発見につながる可能性があります。科学者・研究者であるならば、過去の常識や文献の結論にとらわれてはいけません。このことを皆さんに特に強く強調したいと思います。せっかくの新たな発見を自ら放棄しかねないからです。私たち実験系の研究は、データがすべてです。ある仮説を立てて、実験を組みデータを出していきますが、仮設通りにならないことはいくつもあります。そこから新たな発想が展開できるのです。過去の常識がこうだから、こうなるべきだと考えていると、データのねつ造や改変を行うことになりかねません。得られたデータを信じ、常識にとらわれない見方が大事です。

また、科学哲学者の村上洋一郎氏が、新潮社の「人間にとって科学は何か」の中で、次のように言っています。「研究の目的はこれこれで、その通りに達成できました、というのは、本当は研究とは言えません……。目標を立ててそれがわかればいいというのでは、ほとんどトートロジー（同語反復）ではありませんか。結果がわかっているなら研究する必要がなかったこととなりますから。予想と違ったこと、思いがけない結果が導き出された、などがあって初めて研究をやった意味があると言えるのです。」いかがでしょうか？納得のいく主張だと私は思います。

皆さんは学位を取られたばかりの柔軟な発想ができる年頃です。教科書や、過去の文献をうのみにせず、絶えず疑いの目で読みながら、新たな発見や真理を追究するとともに、新たなイノベーションの創出を目指してください。

僭越ですが、昨年ノーベル医学・生理学賞を受賞さ

れた本庶 佑博士も受賞講演で「教科書を疑え！教科書に書いてあることを信じないこと。自分の目で確信ができるまでやる。常識を疑え！」と話されていたので、私はこのことについて意を強くしています。

これから世の中が大きく変わります。Society 5.0の構築、2030年を見据えたSDGsの取り組み、そして、人生100年時代を皆さんは生きていくことになるわけですね。IoTやAIについては脅威を感じているのではないのでしょうか？特にAIにより、多くの仕事がなくなっていくとの予測がなされているからです。ここで重要なのは、人間にとって残された役割を考えることではないのでしょうか？決められたことをそのまま遂行するだけでなく、すぐに役立つかわからないものに目を向けること、知的好奇心を最大限に発揮することが大事だと思います。また、便利さを追求するのではなく、精神的な豊かさを求めることも大切になるでしょう。

これまで、本学で学んだ知識はそれほど多くはありません。これからは、書物や経験を踏まえて様々なことを体験し、絶えず疑問を持ち、それを解決しながら、総合的な判断を行い、社会の荒波を乗り越えていかれることを強く望みます。ボンボヤージュ！

卒業生の皆さんへ



海洋科学部長

佐藤 秀一

御卒業、修了、おめでとうございます。思いっきり海洋大生活を満喫できましたか。大半の方は出来たのではないかと、期待しています。また、東京海洋大学の校歌にあるように「好きなことを好きなだけ、学べるものは幸せ者だよ」と学ぶことができましたか。満足できず、もっと勉強したい人は進学の予定だと思います。これから就職する人は授業で得た知識ならびに実験・研究で習得した方法・経験を生かして、活躍して下さい。進学する人は、常に新しい知見の収集を続けるとともに、それを活かした研究を行い、その成果を世界へ発信して下さい。大学もそうですが、成果を発信することが非常に重要になり、評価に繋がります。

海洋科学部はグローバル人材育成プログラムを始めて、7年目となります。今年の卒業生は4年生になる為のTOEIC要件をクリアした2年目の学生さんです。この

プログラムで培った英語力を是非とも、社会あるいは大学院に進んでから生かして下さい。

また、海洋科学部の教育プログラムについて、現在、日本技術者教育認定機構(JABEE)認定の継続審査を行っているところです。認定されますと海洋科学部卒業生はJABEEの修了生となります。JABEEは、技術者教育の国際同等性を確保するため、技術者教育認定機関の世界的枠組みであるワシントン協定等の考え方に準拠した基準で審査されていますので、海洋科学部の教育プログラムは国境を越えて、その質の同等性が保証されています。世界で認められる資格を持っていることとなりますので、どんどん世界へ羽ばたき、思いっきり活動してください。またJABEEプログラム修了生は履修技術者となり登録により技術士補となることができます。さらに技術士資格試験の第一次試験が免除されますので、奮って技術士に挑戦して頂きたいと思います。10年後を楽しみにしております。

グローバル人材育成プログラムとJABEE認定プログラムの両方を修了していることを活かして、東京海洋大学を巣立ち、世界に羽ばたいて下さい。

皆さんの活躍を期待しています。

卒業される皆さんへ



海洋工学部長
塚本 達郎

ご卒業、おめでとうございます。大学4年間の課程を無事終了されて、晴々とした気持ちと大学を離れるという少し寂しい気持ちで今日を迎えられているのではないかと思います。この4年間、勉強に、課外活動に、アルバイトにと充実した時間を過ごすことができたでしょうか。皆さんは、海洋工学部のカリキュラムとして用意された講義、実験、実習、演習などを履修して卒業するのですから、自信を持って新しい環境へと飛び込んで行って下さい。ただし慢心は禁物です。大学の4年間で多くの専門知識を学んだことですが、それは完全なものではなく、おそらくこれから直面するであろう問題の解決に向けて、ちょっとした助けになるにすぎません。これまでに形成してきた土台の上に、さらに知識、経験を積み重ねて成長されることを期待しています。

就職して社会に出て行く皆さんは、学生から社会人へ立場が変わる大きな区切りを迎えることとなります。

期待よりも不安の方が大きいかもしれませんが、基礎はできています。自分が今やるべきことは何かを常に考え自信を持って、仕事に取り組んで下さい。もし何か困ったことが出てくれば、気楽に母校を訪ねて下さい。先生方は皆さんを歓迎してくれるはずですよ。大学院へ進学する皆さんは、もっと研究がしたいということで、この道を選ばれたと思います。時間を無駄にすることなく思う存分、研究活動や研究室での生活を楽しんで下さい。乗船実習科に進学する皆さんは、長期の乗船実習という貴重な機会を最大限生かして、海技士としてもスキルを磨き、仕事をしていく上で不安が残らないように過ごして下さい。いずれにせよ最終的には自分で決めた道ですから、そこで精一杯努力をしてください。皆さんの今後の益々のご活躍を祈っております。

Good luck!



海洋資源環境学部長
田中 祐志

人生は旅である。大学卒業は旅の終着点ではなく通過点である。ここから船出する諸君の前途に幸多かれと祈念する。

旅路は常に平穏では有り得ない。風に押され波に弄ばれる日もある。海図にはない暗礁が潜んでいる。隙を狙う海賊が隠れている。社会の海はかくも危うく険しい。目標を見据え注意深く粘り強く進まれんことをただ望む。

実社会は学生時代とは絶対値や次元の異なる困難の連続である。しかも、「攻略法」が手軽に得られるほど甘くはない。指針を定め智恵を絞り勇気を奮いながら挑み続け歩を重ねることによってのみ乗り越え得るのだ。幾度倒されても起き上がり遂に乗り越えていった経験は、諸君に力と自信を与え成長をもたらす。だから挑む時は全身全霊を傾ける。「自分には無理でした」「ちょっとやってみただけイマイチできませんでした」が通用しない場面では、やるしかないのだ。

しかし、挑む対象があまりに強大な時には一旦退いて出直す冷静さも必要だ。逃避ではなく雌伏だ。相手を調べ尽くし、どこを突けば破り得るかを見極め、綿密に作戦を練り直し、作戦遂行に耐え得るように心身を整え鍛え直すことが、回り道ではあっても得策かも知れない。「逃げるな」、「つべこべ言わずとにかく突っ込め!お前自身のためだ」などと誰かが言うだろう。しかしその誰かは潰れた者

を踏み台にして利を得んとする悪人かも知れない。あるいはまた無邪気で無能の輩かも知れない。自らで真に価値ありと判断した対象でなければ突っ込んではいけない。人生は一回しかなく身体は一つしか無い。ゲームのようにやり直すことは、出来ない。

進むべきか退くべきか? 決めるのは君自身だ。而して、進むと決めたら断じて進め。持ち場に就いたなら、そこで頑張れ! 「頑張れ」は、「突っ込んで潰れろ」ではなく「困難に対した時、冷静かつ熱烈に、粘り強く取り組め」という励ましである。

Do Your Best, and Good Luck!

大学院修了生の皆さんへ



大学院海洋科学技術研究科長
井 関 俊 夫

大学院修了生の皆さん、課程修了と学位取得おめでとうございます。長い学修期間を終えて、めでたく社会に飛び立つ日を迎えることになりました。これまでの研究生生活を通して、自分の力で問題点を発見し、限られた時間の中で解決していくことの大変さを経験できたのではないかと思います。その経験を生かして、社会に出ても存分に活躍されることを期待しています。

ところで、これから飛び込んでいく社会は、キラキラと光り輝く希望に満ちた世界であると信じていますが、どうも最近、嫌な現実を繰り返し見せつけられているので、若干の不安を感じています。実際、この1年間で完成検査不正や公文書改ざんなど、いったい何件の謝罪会見をテレビで見たでしょうか。このような状況を鑑みると、皆さんも何らかの形で不正な事態に遭遇することを覚悟しておいた方が良いかも知れません。

私は大学生時代に、社会学のレポート課題として、Ezra F. Vogel 著「Japan as Number One」を読みました。その本に出会うまでは、日本人はエコノミック・アニマルと呼ばれ、世界から軽蔑されていると思っていました。しかしその本では、日本人は世界で最も誠実で信頼でき、見習うべき点が数多くあると述べられていました。それ以来、私は日本人であることに誇りを感じて生きて来ましたが、バブルが崩壊して30年、相次いで表面化する日本人による日本社会への裏切り行為の数々を知るにつれ、あの誇りは何だったのかと

虚無感を覚えると同時に、もしも自分が同じ立場だったらその不正行為に加担していたかも知れないと、全身から冷や汗が出るような恐ろしさも感じてしまいます。その理由は、私を含めた日本人の性質は、実はずっと昔から変わっておらず、真の問題点は、誰のために誠実であり、誰に信頼されたいと思っているかという点だと思えます。自分が属する組織と、それを取り巻く社会の利益が相反したとき、どのように判断し、どのように行動すべきなのか、問題はその一点に尽きるのではないかと思います。皆さんは、高度に専門的な知識を身に付けた研究者であり技術者です。低レベルの不正行為などを遥かに超えて、高次元での判断を下すことを社会から期待されている立場の人間です。責任は重大です。どこかの子供に「ボーっと生きてんじゃねえよ!」と叱られないように、これからの人生をしっかりと歩んで行って欲しいと思えます。



COMPLIANCE

2018年度 旅立ち

卒業特集

卒業生、 修了生から在学生へ

縛られすぎない就職活動

海洋科学部 海洋環境学科4年

古川 美奈

私はこの春から飼料メーカーに勤めます。就職活動を本格的に始めた1年前は、自分が飼料メーカーに勤務することなど想像もしていませんでした。

就職活動を始めた当初、私は内勤の仕事への就職を希望していました。他人をサポートする役割が自分に適していると思っていたためです。そのため、業界を問わず転職のない事務系の職種に数多くエントリーしました。

事務職の説明会に参加し、面接を沢山受けましたが、選考を通過しないことが多々ありました。もう一度考え直し、自分に何が足りていないかを分析しました。そこで、私は志望動機を上手く伝えられないことに気づきました。志望動機を上手く伝えられないことは、その企業への入社に対する熱意が弱く、事務系の仕事ということのみに気を向けているだけで、その他に魅力を感じていないと気づかされました。

改めてもう一度企業研究を始めた時、海洋大を卒業された先輩方が活躍する飼料系の企業に着目するようになりました。説明会に参加し、食の根本を支える仕事であること、そして先輩社員の方の雰囲気を見て、一緒に働きたいと思うようになりました。以前は内勤にこだわっていましたが、それ以上に企業の雰囲気や風土に魅力を感じ、転職の多い総合職でしたが迷わずに選考を受ける決断をしました。

就職活動をする中で、自分のこだわりを持つことが大切という話をよく耳にします。しかし、選考が上手くいかない時は、そのこだわりに縛られず、新たな視

点で企業を探すことも1つの方法だと思います。就職活動の進め方はそれぞれだと思いますが、参考にしていただければ幸いです。



左端が筆者

拓海寄稿

海洋科学部 海洋生物資源学科4年

木下 拓海

今回自分の名前と同じである「拓海」に寄稿する名誉を承り光栄な次第です。さて、在学生の皆さん、大学生活は楽しめているでしょうか。勉学に励む方、部活に青春を捧げる方、様々な人がいると思います。大学生活の楽しみ方は十人十色であり、如何様にもできる、というのが大学における一つの醍醐味です。その中で特にこの大学で大事にしてもらいたいものが二つ

あります。一つ目は友人です。先ほど様々な楽しみ方がある、と自分は言いました。自分はというと、部活、サークルにも入らず、大学の中にある朋鷹寮で四年間、日々勉強、遊戯に没頭しました。そんな中、自分は友人に恵まれ、ワンルームで一人寝転がり孤独死するような事態は避けられました。大学の友人は特別なものです。人生の中で特に密な時間を過ごす友人になると思います。大事にしてください。後々、そのような時間を過ごした友人は必ず助けになると思います。

二つ目は研究室です。四年生で就職する方はたかが一年程度、と思う方もいると思います。しかし、研究室での生活は将来のためになる要素を多く含んでいます。集団生活、先輩、後輩関係、実験、データのまとめ方、パワーポイント発表、どれも社会人になってから重要となるスキルばかりです。たくさん吸収してください。また、研究室の人達は友人になるだけではなく仕事仲間とも言えるような関係になります。互いに励ましあって、より良い研究生活を送ってください。最後によく言われていると思いますが、研究室はよく考えて決めましょう。



左から6番目が筆者

新しいことへの挑戦

海洋科学部 食品生産科学科4年
塩賀 彬 裕

在学生の皆さん、こんにちは。大学生活はこれまでの生活と異なり、自由時間が増え、自分のやりたいことに対して打ち込む時間が大いに増えたことでしょう。

私は4年間を通して、新しいことへ挑戦することの重要さを感じました。私の新たな挑戦は合気道部に入部することでした。合気道部に入るまで、武道経験が一切なく、受け身のやり方すら知らず、武道の「ぶ」の

字もない状況でした。しかし、新しいことをすることで自分の知らない側面を見いだすことができるのではないかと考え、入部を決めました。初めは合気道の技がまったくかからず、自分のことが嫌になる時期もありましたが、技がかけられるようになった時には人には伝えられないほどの喜びと達成感がありました。また、社会人と合気道の練習を行う機会もあり、学生との練習とは違った緊張感を味わうことができたと共にコミュニティの場が広がりました。今では私は初段を合格し、黒帯となりました。合気道という新たなことに挑戦することで、貴重な経験をすることができ、自分の成長の大きな糧となりました。

入学前はとても長いものかなと思っていた大学生活ですが、あっという間に過ぎ去ってしまいました。新しいことに挑戦する機会は、部活に限らず、趣味、研究、バイトなど様々あります。皆さん悔いの残らない大学生活を過ごしてください。



在学生へのメッセージ

海洋科学部 海洋政策文化学科4年
吉田 拓 海

こんにちは。海洋科学部、海洋政策文化学科4年の吉田拓海です。短く、拙い文章ではありますが、在学生へのメッセージを贈りたいと思います。

私から、在学生の皆様へ伝えたいことは、是非、日本各地様々な漁港、漁協に行き、今現在の水産業の姿を実際に見てみてほしい、ということです。もちろん大学で受ける講義も重要ですが、自分の目で見て、肌で感じ、その地域の方の話を聞く以上に勉強になるこ

とはないと、考えています。

私の話を少しだけします。私は、秋田県由利本荘市の漁港が近くにある家に生まれました。その漁港は、小さく、また漁業者も少なく、閑散としたものでした。小さなころからその漁港には遊びに行くことも多く、大学入学以前までは私の中で漁港といえばその寂れた漁港でした。

しかし、大学入学後、実習等でどちらかといえば漁業が盛んな漁港や漁協を訪れ、私の中の漁港、また漁業に対するイメージは大きく変わりました。まだまだがんばっている漁業者はたくさんいると、その事実を知れたことが、私にとって大学で学んだ1番大きなことかもしれません。

水産業に限らず、今自分が持っているイメージに、様々な知識や他の人の価値観をどんどん足して行ってほしいなと思っています。そのために、1番簡単で早いのが実際に行ってみることで。勉強や研究のためだけではなく、色々な場所へとりあえず、行ってみてください。

以上を、在学生へのメッセージとさせていただきます。

大学生生活、勉強も遊びも楽しみながらがんばってください。



筆者の漁港のイメージ〈大学入学以前〉

大学生活をより良くするために

海洋工学部 海事システム工学科4年

宇田 慎太郎

こんな言葉を知っていますか？「環境あれど努力なくば育たず 努力あれど才能なくば咲かず 才能あれど環境なくば実らず」古事記に書いてあるそうです。本学は船・海を学ぶには最適な環境があり、本学にいる皆さんは皆才能を持っています。あとは努力するだけで

す。どうか悔いの残らない大学生生活を送ってください。

光陰矢の如し、とは申しますが本当にこの4年間間はあっという間でした。卒業をわずかに控えている今でも「もっと〇〇していればよかった」と思うことはたくさんあります。こういう場でよくあるのは「もっと勉強していれば」というのがありますが、私が今一番感じていることは「もっと遊んでおけばよかった」という思いです。正確には遊び＝趣味です。勉強も趣味もいくらやろうと卒業時には「もっとやっておけばよかった」と思うので、同じ後悔するなら趣味に力を注ぐべきです。読書、旅行、映画、音楽、打ち込むことが出来るというのは何よりも素晴らしいことです。勉強はやる気さえあれば何歳になってもできますが、趣味をやりたいときはまとまった時間が欲しいもの。そして大学にいる頃が人生で最も自由な時間がある時です。できれば生涯打ち込むことが出来る趣味を見つけてください。全力を出せる趣味が人生を豊かにし、人としての厚みを持たせると誰かが言っていました。

とはいえ、大学生の本分は勉強です。趣味に打ち込んで勉強を疎かにすると、趣味に使える時間も減ります。最低限の勉強は忘れないでください。



四尾連湖キャンプ場にて（筆者＝右端）

充実した大学生活を

海洋工学部 海洋電子機械工学科4年

田島 昂輝

在学生の皆さん、大学生活はいかがでしょうか。

大学生活を振り返ると他の大学では出来ない様々な体験が出来たと思います。まず、他の大学ではなかなか見かけないマリンスポーツ、毎年1ヵ月ある乗船実習、遠泳実習など。また、海洋開発の外部のイベント

に参加させてもらったり、研究室では深海の世界を見せてもらったり、非常に充実していたと思います。

自分はその中でも部活動にかなり時間を注いだと思います。ほぼ毎日の様に練習をし、勝つまで繰り返す。そんな日々を送っていました。切羽詰まった生活をしたりして、ギリギリで凌いだりして余裕もなかった時も多くありました。しかし、そのような中でも目標達成のために汗を流して、達成して涙を流しました。今でも懐かしく思います。

私は偶々部活でしたが、在学生の皆さんは打ち込める何かを1つでもいいので探してみ、それを継続してみてください。限りある時間を有効に使い、自分で足を運んで、色々な事を感じてみてください。

就職活動の面接などでも胸を張って言えると思います。そして、充実した大学生活を送ってください。



カッター部での大会にて（筆者は前列右）

興味があることを積極的にやろう

海洋工学部 流通情報工学科4年

小日向 理 早

在学生のみなさんに、学生生活を充実させていただくために私が一番伝えたいことは、やりたいことにどんどん挑戦して欲しいということです。私自身、興味のあることを積極的に取り組んできました。というのも私は物流の効率化や事故率の軽減に興味があるのと、旅行や外国の方とお話しすることが大好きなことから大学の海外派遣プログラムや財団のサマースクールを利用してたくさん海外に行かせていただいたからです。インターンシップでは2週間タイに行ってきました。受

け入れ先の株式会社日立物流では、入出庫の作業工程や通関業務の流れ、実際の物流現場の見学をさせてもらい、その時の経験が今でも役に立っています。また、東京海洋大学と上海海洋大学、韓国海洋大学が協定を結んでいるオケアヌスプログラムの短期・中期のどちらの派遣にも参加しました。ここでは、自分の専攻に限らずバイオテクノロジーや資源環境など他分野を学ぶことができ、韓国や中国の学生と友達も作ることが出来ました。それからエネルギーや海洋開発といった目線から物流のあり方を考えてみたくなり、日本財団のサマースクールで1ヵ月間オランダにて洋上風力発電の勉強をさせていただきました。このような貴重な経験をさせていただけたのも、すべて大学の援助があったからこそです。私が「海外に行きたい。」と思ったときに、機会を設けてくださったのは事務や財団の方です。自分のやりたいことが実現できるチャンスはたくさんあります。親身になってくれる先生や先輩方もいらっしやいます。そういった機会を有効に活用して密度の濃いキャンパスライフを過ごしてほしいです。



オランダの名物料理（ハーリング）を食べている様子

学生生活を謳歌していますか!?

海洋科学技術研究科 海洋管理政策学専攻2年

潮 夏 希

在校生の皆さん、突然ですがこの場をお借りして皆さんへ「色々な事に興味を持ち、積極的に行動してみてください!」とお願いをさせていただきます。

私は学部時代、潜水部に所属し、学業も程々に、ア

アルバイトと部活動中心の生活を送っていました。そんな日々から一転し、現在は、大学院でひたすら勉強の毎日を過ごしています。学部時代のアルバイトでは飲食、イベント、TAと様々な環境で、幅広い年齢・経歴を持つ人と関わり、良い社会勉強ができました。また、どんな時も共に練習を耐え抜いた部活仲間と、かけがえのない時間を過ごすこともできました。

そして今、一番に感じているのが学ぶ面白さです。座学はもちろん、体験実習での経験が、効率良く卒業する方法ばかり考えていた私へ、大学院進学の道を拓いてくれました。6年を通し、目で見て聞いて考える中で手にしてきた、新たな知識や出会い、思考は、私だけのものであり、これからも私を支え続けてくれるのではないかと期待しています。

興味関心のまま、好きな事に夢中になっていられるのは、良くも悪くも学生の特権です。社会人ほど責任がなく、かつ、時間やお金に余裕の生まれる学生だからこそ、一を追求するも、百に挑戦するも自分次第。とにかく「行動してみる」ことで、私のように、思いもしなかった選択肢を見つけることができるかもしれません。アドバイスというほどでもありませんが、これを読んで、少しでも多くの皆さんの学生生活が、より充実した時間となることを祈っています。



卒業式に研究室のメンバーと（本人は左から2番目）

研究のモチベーション

海洋科学技術研究科 応用環境システム学専攻3年

小島 智恵

私は2007年3月に本学の博士前期課程を修了し、航

海士として働いていました。数年後に陸上勤務の機会があり、その際に船員が安全にそして安心して働ける職場環境について、新たな見聞を広めることができました。船員災害について、なぜ船では災害が起きているのか。災害の対策や手順書の改正、周知だけがいいのかと疑問に思いながら、海上勤務に復帰しました。海上勤務中も船員災害について、考え深いものがありました。月日は流れていきます。その間、出会った方から「学ぶのに遅すぎることはない」という言葉をお聞きし、学びたいと思った時がチャンスなのかもしれない思い、前職場と家族に相談し2013年10月に博士後期課程に入学しました。入学後は、転職し現在、鳥羽商船高等専門学校の教員として働いています。教員として授業やクラブ活動、卒業研究、学生指導など多様な仕事があり、研究に十分な時間を取ることが難しく、研究を進めることができない日々が続く時もあります。そんな時に限って、指導教員の先生から連絡をいただき『研究を進めない！』と励みになり、時には『研究が進んでないからマズイ』などと悩まされる連絡になることもありましたが、自分が研究したいテーマであるという想い、様々なことを文献や先行研究で、学んで見つけているという発見、大学や学会で自分の研究発表することにより様々な方々から助言を頂き、研究で悩んだ時には相談できる機会があったことが、研究を進めることができるモチベーションだったと思います。

最後に皆様の大学生生活が実りあるものとなり、皆様の夢が実現しますことを祈っています。



鳥羽商船の小島研究室にて（筆者右側）

2018年度 旅立ち

卒業特集

卒業、修了する 先輩留学生から在学生へ

勉強は自分を探す!未来を探す!可能性を探す!

海洋科学部 海洋生物資源学科4年

呂 健

大学は勉強するところです!しかし我々にとって何を勉強すればよいのでしょうか?知識の勉強は必ず勉強するほどいいです。では、他は何を学べばいいのでしょうか?それは人によっていくらでも答えが出るかもしれませんが、私の前の学校の先生は私にとってすばらしい答えをくれました。「まずはどんな自分になりたいのかを考えなさい。それにそのなりたい自分にとって何が必要なのか?わかったらその必要なものを満足になるまで勉強すればいいだろう。」それで私はたくさんのなりたい自分を考えました。つまり私の可能性はどのぐらいがあるのかをたくさん見つけました。そんなたくさんの自分になるため、たくさんの勉強をしまし

た。その1つのなりたい自分は1つの私の未来です。大学はこんなたくさんの未来を確実に実現できる舞台なのだと私は思います。

皆さんは小学校、中学校と高校で多く勉強したが、大学に進学したやっと開放されたと思うかもしれません。私にとって勉強は青春そのものだと思います。死ぬまで勉強すれば青春は死ぬまで続け、逆に勉強を諦めれば青春も終わります。人生は一度だけですから、つまらない生活を繰り返す毎日はきっと辛いでしょう。未来の可能性が多いほど自生は退屈のままで終わることはないとは私は信じております。ですから、大学にいるうちにたくさんの自分の可能性を探しましょう。悔しい人生のないように頑張りましょう!

留学生の皆さんへ

海洋科学技術研究科 海洋資源環境学専攻2年

崔 忠 日

私は海洋資源環境学専攻、博士前期課程の崔 忠日(チェ・チュンイル)です。韓国からの留学生です。2015年10月から半年間、東京海洋大学で交換留学生として勉強した後、2017年4月から再び海洋大学に戻ってきて大学院生として留学生生活を始めました。そして現在は、2019年に修士課程修了を控えています。修了を控えた今、先輩として、また留学生として伝えたい話があります。

留学生の皆さん、積極的に雑談をしましょう。私も日本語と、時には英語を使用し、大学で出会う人々とコミュニケーションをとるように心がけました。しか



し、最初のうちは、日本語の勉強が不足している事と、文化の違いにより理解が難しい場合もありました。そんなときに、大きな助けになってくれたのが、積極的に声をかけてくれる友人や仲間でした。頭では考えている言葉が、日本語ではよく表現できなくて疲れる事もありました。言葉のミスをするようで心配になる事もあります。交換学生として6ヶ月、大学院生として2年間、大学で出会った友人は優しくったり明るかったりする人もいれば、時には静かな人も、個性的な人もいました。しかし、みんな一つの共通点がありました。それは、話しかけるとみんな返事をしてくれるということです。特別なイベントやきっかけがなくても、ただ一緒にジュースを飲みながら軽い雑談をするだけで、留学生活には大きな変化が起きると思います。

皆さん、東京をお楽しみください。そして日本を楽しんでください。大学生活と研究だけではなく、街を

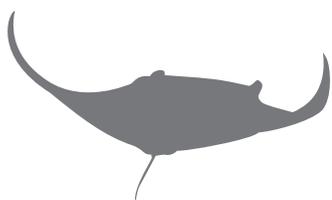
歩くのも重要なことだと思います。新しい場所へ行き、新しい人々と会い、新しい文化に会うことが、留学生活を楽しく過ごすチカラになると思います。



館山で実験の準備をしている時の写真（右が筆者）



楽しい研究室合宿の写真（後列一番左が筆者）



退職の年を迎えて

退職なさる

教職員の方々より一言

原点



食品生産科学部門 教授

酒井 昇

14 本学に赴任したのが昭和63年2月で、平成最後の年に退官となります。平成の年とともに年を重ね、平成とともに終わるという感じです。この間、魚介類をはじめとして肉類、ごはん、野菜と幅広い食材を対象として、食品の加熱を中心に研究を行ってきました。本学赴任前は、工学部化学工学科を卒業し、資源工学科に勤務していました。そのときの研究は、鉄鉱石などの反応を取り扱ったもので、煮ても焼いても食べぬ代物を対象としていました。本学における食品工学の研究とは似ても似つかないように思えますが、これら研究のバックグラウンドは熱・物質移動と反応速度論で、まさに学部・大学院時代に学んだ化学工学で、私の原点となっています。

皆さんにとっても、本学で学んだことがこれからの人生での原点になることと思います。しっかりと今を脳裏に焼き付けてください。卒業生が大学時代に勉強したことは忘れてしまい、もっと勉強しておけば良かったとよくこぼします。多くを勉強することに越したことはありませんが、一度学んだことは、忘れていても必要に迫られて本や記事を読めば必ず思い出すものです。本学で学んだことが皆さんにとっての財産になっています。もう一つの財産は母校があるということです。何か問題があったときに母校を訪ねてください。

指導した先生とまわりの先生も含めてきっと道が拓けるとと思います。何か問題がなくても研究室を訪ねてくれると嬉しいものです。卒業生が社会に出て活躍していることは、我々教員にとって財産であり、教員冥利に尽きます。

最後に皆さんの健康と社会での活躍を心よりお祈りします。

退職の年を迎えて

食品生産科学部門 教授

鈴木 徹

いつも読んでいた本誌第31号に自分自身が寄稿することになったことに感慨深いものがあります。

東京水産大学に縁があり学生としてお世話になったばかりか、教員としても東京海洋大学に生まれ変わった後も品川キャンパスで定年まで過ごさせていただきました。振り返ると無茶な20代、ヤンチャな30代、無鉄砲な40代、頑固な50代、やっと落ち着きそうな60代と三十数年の長きにわたって、語りつくせません。何よりその時々自分を支えてくれ、温かく見守ってくださった多くの先輩、同僚、友人、後輩学生なくては勤め上げられませんでした。深く深く感謝したいと思います。そして直接はあまり接点のなかったものの、知らず知らずにお世話になっていた旧東京水産大学、東京海洋大学の職員の皆様にも多大のご迷惑をおかけ

して来たこと、この場をかりてお詫びと感謝を述べたく思います。

品川の風景、世相も変わり、大学を取り巻く環境も激変しつつありますが、大学が変わらないところは常に若い学生たちのエネルギーであふれる場であるところだと思います。この出身大学がいつまでも若人にとって生みの苦しみの場、喜び、楽しみの場、創造の場であってほしいと願っております。

教員(研究者)生活を振り返って



海洋政策文化学部門 教授
馬場 治

1986年8月に当時の共通講座職員として採用され、その翌年87年4月に学科再編によって登場した資源管理学科助手として採用されたのが大学教員生活の始まりでした。教員生活を30年以上続けたことになりましたが、当時は今と異なり実質的に小講座運営でしたから、良い上司に恵まれた研究者(あえて教員とは言いません)生活だったと、懐かしく思い出されます。故長谷川彰先生、加瀬和俊先生、廣吉勝治先生、多屋勝雄先生など、いずれも研究上の議論を交わしながら、多くの示唆を頂きました。

研究室のゼミでは、時に学生の存在そっちのけで教員同士が厳しい議論をしたことも多くありました。今では、1教員1研究室となり、このような議論をすることもなくなり、研究者としてだけでなく、学生にとっても決して望ましいことではないと感じています。いずれも、文科省の節操のない政策変更により振り回された結果だと、我が国の教育行政の理念のなさに情けなくなります。法人化もしかりです。しかし、上司と同時に学生にも恵まれた生活でした。今でも、多くの卒業生が研究室を訪ねて来てくれて、酒を交わしながら昔話をしています。

大学名は海洋大学となりましたが、卒業生の多くは、依然として水産大学あるいは水産分野の話で盛り上がります。そんなことに元気づけられながら、残り少ない教員生活を送ろうと思います。

君子之於学也、蔵焉脩焉、息焉游焉



海事システム工学部門 教授
稲石 正明

勉学や研究について真剣に考え始めたころ、私の研究態度や行動に不安を感じられたのか、大恩人の先生から一冊の本を紹介されました。その本は儒学における五経の一つ「礼記」です。

礼記の学記第十八に、「君子の学に於けるや、焉を蔵し、焉を脩し、焉に息し、焉に遊ぶ」という言葉があります。勉強や学問を通して広く物事に通じるには、多くの本を読んでひたすら知識を蓄える「蔵」、知識を身体に修め、会得する「脩」、人間が息をするように自然体で学ぶ「息」、子供が遊びを通して学ぶように、楽しい遊びの境地で学ぶ「遊」の四つの学びの段階を経るという意味です。

恩師の勉学、研究姿勢は、まさに自然体で遊びの境地のようで、私の目指すべき姿だと強く心に残っています。退職の年を迎え、自分が四焉のどの段階にあるのか、反省を込めて問いかけているところです。勉学に励んでいる学生の皆さんは、四焉のどの段階に達しているのでしょうか。学問だけでなく、この四焉の段階を経て人間性が磨かれていくようにも思います。

学生の皆さんには、時を経ても価値を失わない国際的にも通用する力を身に付けてほしいと思います。「学校で学んだことを一切忘れてしまった時になお残っているもの、それこそ教育である」と言った人がいます。その残っているものは教養です。教養は厳しい勉学を通してこそ身に付けることが可能です。学生であるうちは何よりも優先して勉学に励んでください。

退職を迎えて



海洋電子機械工学部門 教授
岩本 勝美

昭和53年に東京商船大学を卒業して今年で40年になる。私が大学を卒業した年はオイルショックの影響で企業が採用を手控え、本学への求人はいわゆる名の知れた企業からなく、船会社からの求人も少なく、私と同じ学科で船舶

職員として就職した者は3,4人であった。私は幸い今所属している研究室の上司であった真田先生より乗船実習中に助手として採用するとのお話をいただき、卒業後の昭和53年10月より昭和54年3月まで助手として働き、昭和54年4月より本学大学院に入学し、2年間の修士課程を終えた後、再び昭和56年4月より本学に採用していただいた。

昭和57年5月より本学教授でトライボロジーの分野で活躍されていた佐藤先生から東京大学の流体潤滑の分野では著名な堀教授を紹介いただき、昭和57年5月より内地研究員として堀研究室で流体潤滑について学ぶ1年間を過ごした。正式な内地研究員としての期間は10ヶ月であったが、研究に専念するために、更に3年間堀研究室に通った。また、平成11年3月26日より10ヶ月間在外研究の機会を得た。イギリスのリーズ大学に7ヶ月、アメリカのオハイオ州立大学に3ヶ月間滞在した。リーズ大学では弾性流体潤滑で著名なDowson教授の研究室に、また、オハイオ州立大学ではHamrock教授の研究室で研究を行った。Dowson教授の研究室では弾性流体潤滑条件下の転がり軸受を模擬した実験装置を使用し、鋼球とガラス平板の間のナノオーダー油膜厚さ測定を行い、逆問題の考え方で、測定結果から油の特性数を推定するという研究を行った。Hamrock教授の研究室では弾性流体潤滑条件下に突起がある場合の油膜特性を数値解析により求め、軸受特性について考察検討を行なった。大変有意義な10ヶ月間を過ごす事ができた。以上のように38年間本学から教員生活を支えていただいた事に大変感謝申し上げます。

新しいことに挑戦を！



海洋電子機械工学部門 教授
刑部 真弘

大学院を修了して国の研究所に勤めましたが、ほとんどが海外での仕事でした。特に印象に残っているのは、米国ロスアラモス研究所での生活です。海拔2300mにある空気の薄いアパートで暮らしながら、多彩な研究員たちと下手な英語で沸騰するような熱い議論をしていました。なお、気圧が低いので水も低温ですぐに沸騰し、お米は圧力鍋で炊いていました。仕事ではスパコンを使った熱流体計算に没頭していましたが、計算機を使

う予約待ちが数週間以上というのが普通でした。新しいアイデアが浮かんでも、計算ですぐには確認できないのです。そんな時、若い研究者がパソコンを紹介してくれました。小さなパソコンがネットワークでつながればスパコンを超えるという話も新鮮でした。その小さなパソコンを広めようとしていたのが、私と同年のビルゲイツとジョブズでした。新しいことに挑戦し彼らは人類史上に残る仕事をしています。そして大金持ちにもなりました。

さて、米国やヨーロッパの若い研究者たちに刺激された8年間の研究所生活の後、若い学生たちと新しいことをやりたいと思い大学に移りました。超小型複合サイクル機関から始まって、潜熱回収熱交換器やスマート構想等に挑戦してきました。最初は無理だと言われながらも製品になったものもあります。苦労は多いかもしれませんが、新しいことに挑戦することは楽しいことです。そして、新しいことを求めて世界中を旅してください。

退職を迎えるにあたって



海洋電子機械工学部門 助手
橋高 勇

航海訓練所（現：海技教育機構）よりご縁を頂き本学に赴任させて頂いてから早3年の月日が過ぎました。

海上生活と違う未知の環境の中で、赴任後1週間も過ぎる頃には、この仕事を続けていくことが難しく辞めようと思い始めました。しかしその時に教授、助教授（現：准教授）の優しい言葉に随分と助けられました。そのお陰で本日を迎える事が出来、感謝しております。

又、院生及び学部生の皆さんからも沢山のパワーを頂きました。学生さんについては、練習船（航訓）で実習や整備作業を共にしてきたので、本学に於いても一緒に研究のサポートをしたりすることは楽しい経験でした。しかし卒業される時は切ないものがあります。学生さんの名前を中々覚えられなくて、やっと覚えた頃には卒業式を迎えるのですから。

卒業式を迎える学生さんには、今後の御活躍を期待しています。健康に留意して、自分を信じて頑張ってください。

又、本学の先生方、事務室の皆様方、色々お世話になりました。深く感謝申し上げます。

簡単ですが退職を迎えるにあたり一言お礼を述べさせていただきます。

本当に有難うございました。

退職にあたり

流通情報工学部門 教授

下野 孝一

本学に奉職してから29年になります。教職員の皆さん、学生の皆さん、卒業生の皆さん、どうも手数をかけしました。ありがとうございます。

大学4年生のときに「未熟な私が社会に出ても皆が迷惑する」ということで大学に残ろうと決めました。今後はそれ以来はじめて、研究機関ではない環境で過ごすこととなります。これから自分がどのように生き延びていくのか楽しみです。

教員生活の中でいろいろな学生さんに出会い、定点観測することで人間の多様性を教えてもらいました。同じ大学、同じ学部、同じような成績で進学してくる学生さんたちは本当に多種多様でした。自分で考えてどんどん研究する人、できるだけ手を抜こうとする人、裕福な家庭に育った人、養育者とのトラブルを抱えていた人、誠実な人、いいかげんな人、すぐごまかす人、自分の能力を過大評価している人、過少評価している人…。実験データを操作しようとした人もいました。卒業生の多数派は物流やIT関係に就職していった人々です。新聞社、広告代理店、食品関連会社、船系の保険会社に就職した人もいます。

宮大工になりたい、歯医者になりたい、研究者になりたい、芸人になりたい、アパレルデザイナーになりたいと言っていた人たちもいました。彼らは希望を叶えたでしょうか。

皆様世の中は世知辛いですが、まんざら捨てたものでもありません。とにかく生き延びることが大事なことです。お互いがんばりましょう。

退職の年を迎えて

流通情報工学部門 教授

田中 洋平



大学に入った時「昭和30年生まれが入学して来た。」と言われて十年ほど後、縁あって本学（当時は東京商船大）に奉職し、十年ほど前「平成生まれの新入生が来た。」と言っていたのに、時の経つのは早いもので定年を迎える歳になりました。

主に一般教育の数学を担当していて、二十歳前後の学生を相手にしているためでしょうか、自分では若い頃の気持ちと変わらない気がします。学生には、数学を勉強する事を通じて自分で考える習慣を付けてもらえるようになれば、と期待します。

専門は代数群の表現論という分野で、最近は『非可換な多項式の量子化』のような研究をしています。直接海とは関わりが無いことをしていますが、在外研究の派遣など、教育ばかりでなく研究においても大学で大変お世話になりました。

後2年間再雇用で務めますが、これまでのように楽しく教育研究を続けて行けたらと思います。在職中に、大学教育大綱化、大学の統合、国立大学の法人化など様々な事がありました。これからも困難な事があると思いますが、皆様の健闘により乗り越えていけると願っています。

ありがとうございました

海洋環境科学部門 教授

河野 博



1977年、大学3年生の夏に安田富士郎先生の魚類学研究室の門をたたいてからの40年間は、「感謝」の連続でした。卒論と修論はイタリアのシチリア島でマグロやメカジキの研究をさせていただきました。

博士課程に入学した翌年、安田先生が他界されました。50歳は早すぎです。そこで私を拾ってくれたのが安田先生と同級生の多紀保彦先生です。

博士号を取得した後に、「東南アジアを勉強してこい」という多紀先生の一言で、東南アジアで七年間風太郎をするという貴重な経験もしました。

1991年には東京水産大学の助手として採用され、多紀先生とともに東南アジアを中心にした研究や教育に励むことができました。ちょっと残念なこともあります。多紀先生には「君は魚類学の王道を行け」と言われたのですが、私の仁徳至らず、あまりご期待には沿えませんでした。

1996年に身体に変調をきたし、ご覧のと通りの病弱な身になりました。しかし、海外から東京湾に視点を变えて、教育研究を続けることができました。一昨年には還暦のお祝いをしてもらい、1991年以降に巣立った300人ほどの卒業生のうち100人以上と再会することができました。

私の教育研究の業績は上の488文字だけです。

それでも、東京水産大学でも東京海洋大学でも学生さんや朋輩の方々に恵まれ、さらに諸外国だけではなく国内でも多くの方々のお世話になり、とにかく楽しい「感謝」の40年間でした。

ありがとうございました。



折々の記



海洋資源エネルギー学部門 教授

和 泉 充

大佛次郎氏編の「素顔の鎌倉」という、いつも自分の傍らに置いてきた本があります。そこの終章に尾崎喜八さんが「折々の記」という表題で日常の鎌倉を書き下ろしておられます。この表題には高校生のころから惹かれていて、今回の一生に一度？の機会に借用させていただきます。

大学の学生時代のこと..ずいぶん好き勝手に勉強して過ごしてきたものと思います。物理学を専攻しながらも、カリキュラムの選択自由度が高かったのでヨーロッパ史をはじめとする人文系の講義や集中ゼミにも顔を出していました。おかげで高校時代に大好きだった有機化学の大部分をさっぱり忘れてしまい、後年再度自学自習の羽目になりました。物理、生物、化学、地球科学の実験はそれぞれ楽しく、先生と学生が夜遅くまで他愛のない話をしながら実験室に残っていました。今から考えるとのどかなことでした。

卒論から大学院になる..まず工場実習で旋盤、縦・横のフライスなどの工作機器の実習を受けて学内ライセンスをもらい、あとは自分でできる加工は自分でしな

さい。ということで配管や試料を極低温に冷却、電気抵抗測定や、レーザ分光に必要な装置の設計製作からはじまり、ほのぼのした学生生活はどこかに行ってしまう。恩師から、研究指導どころか水泳！まで習いながら、相棒と組み立てたレーザが光を発振したときの感激は一生の宝です。

大学教員とは..大学の教員は従前にも増して研究室という小企業体？の経営者であり、研究資金を確保し、成果を発信しながら授業や実験を通じて学生さん達との二人三脚によって一歩一歩進んでいく。その日々はとても楽しいものでした。超伝導発見100周年記念の国際会議をオランダで共に分かち合い、基調講演をする機会をいただきました。十数年続いてきた産学官にわたる共同研究も例えれば「作戦の教科書どおり？」という語弊がありますが、各々に安着し、苦楽を共にした学生さんや産官の皆様、特に本学URAの方々には本当に感謝の言葉もありません。昨今では、異分野融合と改めていわれますが、三陸の復興地域やアフリカなどの大学との連携活動でも日々充実した仕事をさせていただきます。

今度の週末はまた鎌倉を歩こう



海に生き続ける

海洋資源エネルギー学部門 准教授

青 山 千 春

みなさまに魂からの感謝と、そして真新しい希望を込めてご挨拶します。私は、東京水産大学で航海士免許を取得できる水産専攻科初的女子学生でした。商船大などは女性の私を受け容れなかった時代です。結婚



AGU2018FallMeeting において招待講演

して十二年の子育てを経てから再入学し、ふたりの男の子を夫に託して一年間の遠洋航海もこなし、免許取得を完遂、さらに大学院に進み、水中音響学によって博士号を得ました。家族の協力のもと、すべて日本女性としては初めての歩みです。そして計量魚群探知機の超音波の新しい活かし方を考案して海中を調べ、一九九七年に日本海でメタンブルーム、すなわちメタンハイドレートの粒々が柱のように海底から立ち上がるのを発見、これで日本のみならず米国、豪州、中韓露にEJ、ノルウェーと世界の特許を取得したのです。しかしライセンス料は取りません。私利のためではなく日本がこれまでの思い込みを覆し自前資源を確保するように取った特許だからです。

これを天が見ていてくれたのか、水産大と商船大が一つになって海洋大が生まれ、しかも自前資源を探究する海洋資源環境学部が日本で初めて置かれました。このチャンスに准教授となりました。既に六十歳でしたが、むしろおかげで、これまでの歩み、観測経験をすべて活かします。定年後の再雇用が実現すれば総計では五年間、若い研究者や技術者を育てて海の観測現場に送り出すことができます。みなさまと歩む道はきっと、まだまだ続きます。

20年間の思い出



船舶実験実習センター 助手

風 間 富 一

本学に御世話になり20年が過ぎようとしています。

流通情報工学科、海事システム工学科、船舶・海洋オペレーションセンターと所属は変わりましたが、現住所は航海実習部門一筋でした。

最初配属になった流通情報工学科では、授業の進め方、実験の準備から学生と実験など上司である鶴田先生、黒川先生から教えて頂き現在があると感謝しています。

本学に御世話になり直ぐ旧「やよい」で富浦ステーション往復、眠い目を擦りながらの早朝カッター訓練、海王祭前のカッターパレード、海王祭、海の日、クラブ活動支援で城ヶ島往復等、特に思い出に残っています。

現在の学生には???と思われる今は無くなったイベントもあり越中島の特色が薄れ淋しさを感じますが、

これも時代の流れと思い過ぎてきました。

短艇授業での小型船舶実技授業や流通情報工学科での実験、ゼミでの学生の顔が今でも思い浮かびます。

卒業して大学に遊びに来てくれたり、実験で企業の一員として参加してくれたりと社会人として成長した姿が見られたのも大学生生活の喜びでした。

皆様には新旧「やよい」で御世話になり、最後の一年は陸上からの付き合いでしたが在職中は皆様にご迷惑をお掛けしたと思います、後2年航海実習部門で短艇授業、クラブ活動支援等で皆さんにお世話になりますが宜しくお願い致します。

最後に東京海洋大学のますますの発展を祈念し挨拶とさせていただきます、有難うございました。



新任教員の紹介



食品生産科学部門 教授

松本 隆志

「人間到る処青山あり」

2018年10月1日に食品生産科学部門に着任した松本と申します。大学を卒業し、食品企業で29年半勤務後に、本学で研究や教育をする素晴らしい機会を頂き、心から感謝しています。今回この原稿を作成するにあたり、過去の自分を振り返ってみました。

私自身の学生時代は将来の自分を描くことができず、大いに悩み、気持ちが晴れないまま社会に出てしまいました。そんな私に、良い出会いと偶然が重なり、今があります。

最初は、食品企業の研究所でテーマが変わる時偶然バイオセンサーのテーマを選んだこと。次はその内容が、他大学で教授になられた恩師の研究とつながり、その大学で学位を取得することができたこと。その後、生産技術部門から思いがけず海外事業部門に技術者（開発から工業化、品質保証に至るまで）として異動になり、それ以降品質関連業務に20年間関わることになったこと、です。どれ一つ欠いても今の自分はないと思うと不思議な気がします。

会社員生活は決して順風満帆ではなく、良い結果が出ずに評価されなかった時期や人間関係に悩む時期が長くありました。自分では精神的に強いとは思いません。しかし、どんな困難に直面した時にも、何とかしよう、という気持ちで努力を続けたので、幸運に恵まれたと思います。

現在、少子高齢化や技術革新など、世の中が大きく変化しています。研究内容もそれに伴い、考えていきます。また、環境の変化があっても適応して困難を強い気持ちで乗り越えることができる人材の育成に力を注ぎます。どうぞよろしくお願いいたします。



海洋政策文化化学部門 准教授

大石 太郎

「水産物にかかわる消費者分析」

2018年10月1日に海洋政策文化化学部門に着任した大石太郎です。前職では福岡工業大学社会環境学部という理系大学の中の文系学部にも所属し文理融合に近い環境にいましたので、文系と理系の垣根を越えた教育・研究活動を実践している本学の海洋政策文化化学部門にはとても馴染みやすさを感じています。これまでに得てきた経験を活かしながら皆さんと共に学び研究を深めていくことを楽しみにしています。

私の研究内容ですが、アンケート調査等を通じて得たデータを統計解析することで水産物に対する消費者の意識や行動とその原因を明らかにする研究に取り組んでいます。例えば、日本では魚離れや魚食衰退と言われるように消費者があまり魚を食べなくなり、食べている魚種もマグロやサーモンなど特定の魚に偏り魚食多様性も低下しています。その原因が食の欧米化がもたらした食文化の変容にあるのか、多忙になった現代人が手間のかかる魚料理を避けているからなのか、あるいは資源の減少による水産物の価格高騰にあるのかといったことを特定し、どのような要因がどのような消費者の意識・行動にどれだけの強さで影響を与えているのかを明らかにする研究などに取り組んでいます。それを通じて私たちの健康にも様々な便益をもたらしてくれている魚食の復権や魚食文化の継承のための効果的なアプローチの仕方を提案したいと考えています。

他学科の学生の皆さんや先生方とも多くの交流を持ち刺激をいただきながら教育と研究に邁進して参りたい所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。



海洋政策文化学部門 准教授

松井隆宏

10月1日付で海洋政策文化学部門に着任した松井隆宏です。専門は水産経済学で、主に資源管理、漁業管理について、実験経済学や計量経済学的手法を用いて、データに基づく実証的な研究をおこなっています。

近年、水産資源の減少や漁業の衰退が、大きな社会的な関心事となっています。そして、こうした事態を引き起こしたわが国の漁業の問題は、しばしば「不合理漁獲」ということばで表現され、一般に、水揚げの集中による値崩れや過剰投資、乱獲、小型魚の漁獲など、多様な問題を指します。こうした問題の多くは、「漁獲の利益は占有、資源への影響は共有」といった漁業者個人の最適行動の観点から一応の説明がなされますが、それで説明されるのは一部の問題のみです。特に管理組織が存在するにもかかわらず乱獲や小型魚の漁獲がおこなわれるような場合には、こうした観点からでは説明がつかいません。

しかし、こうした漁獲は本当に「不合理」なのでしょうか？ 上述のように一部の問題については一応の説明がなされていますし、その他についても、その背後には何らかの合理性があるはずで、管理がうまくいっているところとそうでないところでは管理組織の構成員の特性にどのような違いがあるのか、また、管理意識の高い構成員とそうでない構成員では特性にどのような違いがあるのかについて調べ、不合理漁獲の背後にある「合理性」を明らかにすることを通して、水産資源を持続的に利用するための制度設計を目指しています。



海洋環境科学部門 准教授

牧田寛子

2018年10月1日付で海洋環境学部門に着任致しました牧田寛子です。9月までは海洋研究開発機構に所属し、深海・地殻内といった極限環境下、いわゆる太陽に依存しない暗黒の環境での微生物生態系の成り立ちと、その働きに関する研究に携わってまいりました。特に海底の鉱物資源の成因に関与するとされる鉄や硫黄をエネルギー源とする微生物の生理・生態の解明に力を入れ研究を行なってきました。海洋に関わる研究所から本学に着任したのですが、学部時代は、微生物由来の酵素センサーを作成し、食品中のアミノ酸誘導体やヒスタミンの濃度を測定する系を構築する研究を行なってきました。大学院進学後は、上水処理や選炭技術に利用される微生物の機能評価と、鍵となるタンパク質の発現や糖ペプチドの構造解析を行なってきました。その後、民間企業を経て、海洋研究開発機構に着任し、海洋環境中の微生物の研究に携わるようになりました。本学は国内で唯一の海洋研究と教育に特化した大学であり、海洋を軸とした分野を跨いだ包括的な教育・研究を行うことが容易であることや、複数の船舶や臨海ステーションを所有している等、ユニークで魅力的な特徴を持っています。このような環境を生かし、私のこれまでに培った技術や知識を本学での教育・研究活動に役立たせたいと考えております。そして、学生の皆様とともに成長しつつ、本学と海洋研究の発展に貢献していきたいと考えております。今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。



大学院紹介

海洋生命資源科学専攻 / 海運ロジスティクス専攻 / 応用環境システム学専攻

海洋生命資源科学専攻 — 博士前期課程 —

海洋科学技術研究科 海洋生命資源科学専攻主任/教授
廣野育生

海洋生命資源科学専攻では、海洋生物の生理・生態を基礎として、それら生物が海洋で生活できる特殊な仕組みの解明やその特徴を活用した生物資源の管理と修復保全、収穫システムや増養殖生産、環境計測や有益環境の創出等、生物生産に係わる総合的な高度利用に関する学理と技術を教育研究します。本専攻には水圏生物科学、生物資源学と海洋生物工学の3つの専攻分野があります。本専攻は水産研究教育機構および海洋研究開発機構と連携大学院を設置しております。水産研究教育機構からは魚類生理機能学、水産生物機能学、応用資源動態学と水産資源生態学について、海洋研究開発機構からは深海生物学についての研究室を設置している。

求める学生像は、海洋生物に特異な生命活動の仕組みの解明やその特徴を活用した研究に興味があり、その成果を海洋生物資源の保全と持続的利用に応用することに意欲をもって取り組み、自立して研究を進める能力のある学生を求めます。

水圏生物科学専攻分野では、海洋生物の生命現象の解明とその生命システムなどの理解を通じて、絶滅危惧種の増産も可能にする「借腹」種苗生産技術の開発、環境共存型養殖のための飼料開発、完全循環型の養殖工場の設立、海藻の特

性や機能の有効利用とその応用による有益な海洋環境の創出を目指す技術開発、分子育種や分子疫学による生物生産の安定化技術開発、極限環境に生息する生物の特性利用技術開発、生物機能を利用した環境計測や修復技術の開発等を行い、生物生産の高度利用への応用が可能な教育研究を行います。

生物資源学専攻分野では、海洋生物の個体群ダイナミクスや集団遺伝、資源培養、行動・成長・生残・回遊等の生態特性および漁獲過程等の学理を基礎として、環境と調和した海洋生物資源の持続的利用と生物多様性の維持保全に関する分野を対象とします。具体的には、種の分化や系統進化、資源の系群構造の解明と増殖保全、栽培漁業や漁業・遊漁の影響評価、生態系や地球環境と資源変動との関連、混獲防除や選択漁獲といった合理的な漁獲技術の開発を通じて、資源開発と管理システムを構築し、生物資源と人間の共生へ応用するための教育研究を行います。

海洋生物工学専攻分野では、海洋には水産生物だけではなく、鉱物などの多様な海底資源が存在します。これら資源の有効利用を可能にするためには、水産学と工学とが融合したバイオエンジニアリングやバイオテクノロジーの先端的技術について、基礎から応用ま



拠点交流事業セミナー 2006



SATREPS セミナー 2013

でを幅広く理解することが必要です。当分野では漁場環境の保全ならびに食品として安全な水産物を生産し流通するための養殖管理技術、魚介類有用遺伝子の機能解析とその応用に関するゲノムサイエンス、有用微生物の探索およびそれらの機能解析や応用などについて教育研究します。また、生物を利用した海洋のエネルギーや鉱物資源開発などについての応用研究も目指します。

本専攻の教員を中心として国際的な共同研究をこれまでに展開してきており、日本学術振興会の拠点大学交流事業による「新世紀における水産食資源動物の生

産技術及び有効利用に関する研究（平成12年～21年度）、アジア研究教育拠点事業（水産学分野）「安心・安全な養殖魚介類の生産技術とリスク管理法開発に関する研究（平成22年～26年度）」、アジア・アフリカ研究教育拠点事業「東南アジア魚介類種苗生産技術開発センターネットワーク拠点の形成（平成30～32年度）」、二国間交流事業（複数のプロジェクト）、科学技術振興機構（JST）と国際協力機構（JICA）とのジョ

イントプロジェクトである地球規模課題対応事業 SATREPSによる「次世代の食糧安全保障のための養殖技術研究開発（平成24年～28年度）」と今年新たに採択された「世界戦略魚の作出を目指したタイ原産魚介類の家魚化と養魚法の構築（平成31年～35年度）」などがあります。これらの国際的な共同研究事業では研究を実施するのみではなく、相手国の若手研究者（大学院生）と日本の若手研究者（大学院生）との交流機会を設け、国際的感覚を身につけた研究者の輩出にも務めてきています。

海運ロジスティクス専攻 — 博士前期課程 —

海洋科学技術研究科 海運ロジスティクス専攻主任/教授
遠藤 伸 明

海運ロジスティクス専攻では、船舶の安全運航を高度な技術を用いて実現し、海洋環境保全に配慮しながら海上輸送の効率化を図る教育研究を行っています。また、商品や貨物の流れを、海・陸・空輸送を含めた生産から消費までの流れの中で捉え、物流(ロジスティクス)を社会工学的視点から分析する教育研究を行っています。

本専攻では、6つの専攻分野があります。

情報システム工学分野では、船陸間通信を用いた次世代の船舶運航管理、電子海図（ECDIS）・船舶自動識

別システム（AIS）などの高度な情報技術を用いた船舶の衝突回避や港湾交通管理、海上におけるリモートセンシング、最適航路選定法など、情報システムの設計、管理、運用に関する教育研究を行っています。

環境システム工学分野では、環境保全に必要な大気・海洋のデータ解析とエネルギー利用効率化、環境リスク評価と安全遂行システムの確立、海洋人類学の視点からの海洋資源保全の分析などに関する教育研究を行っています。

海洋テクノロジー学分野では、船体運動予測、操縦性の解析と新しい操船方法、統計的運航管理の方法、人間機械系解析による安全運航確保、気象・海象予測、GPSなどによる精密測位、船舶の誘導制御・定点保持・自動操船技術、新しい海洋構造物の設計・運用・管理技術などに関する教育研究を行っています。

海上安全テクノロジー分野では、海上・航空交通の

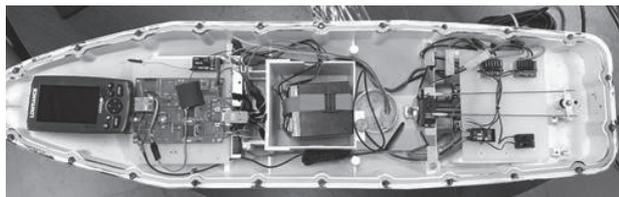
安全を規定する要素と要件について、船の性能、操船の方法、船や材料の開発や航法電子、交通管制に関する教育研究を行っています。

流通システム工学分野では、商品や貨物の流れを、海・陸・空輸送を含む多モード一貫輸送を中心に、経済的最適化と効率化、最適化理論の基礎となる数学的解法、流通情報のネットワーク化、施設の最適配置など、ロジスティクスの計画設計手法、運用管理および政策に関する教育研究を行っています。

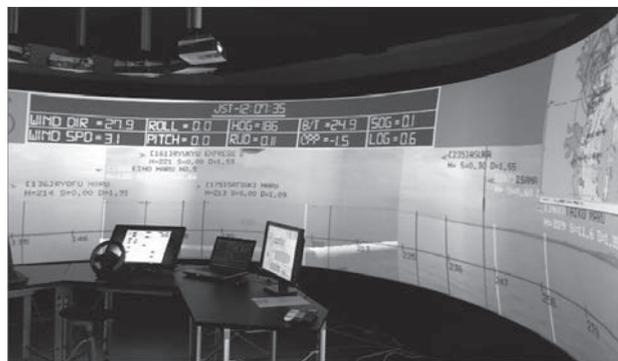
流通経営学分野では、物流活動との関連において、流通経済、交通経済および貿易などの諸問題について、産業組織・構造・政策などの観点から実証的かつ規範的に分析する教育研究を行っています。

本専攻における最近の研究として、以下の4つを紹介します。まず、情報通信工学にかかわる研究として、GNSSや他センサとの統合アルゴリズムを改良し、小型のボートを用いて、無人でダムや港湾域の測深をで

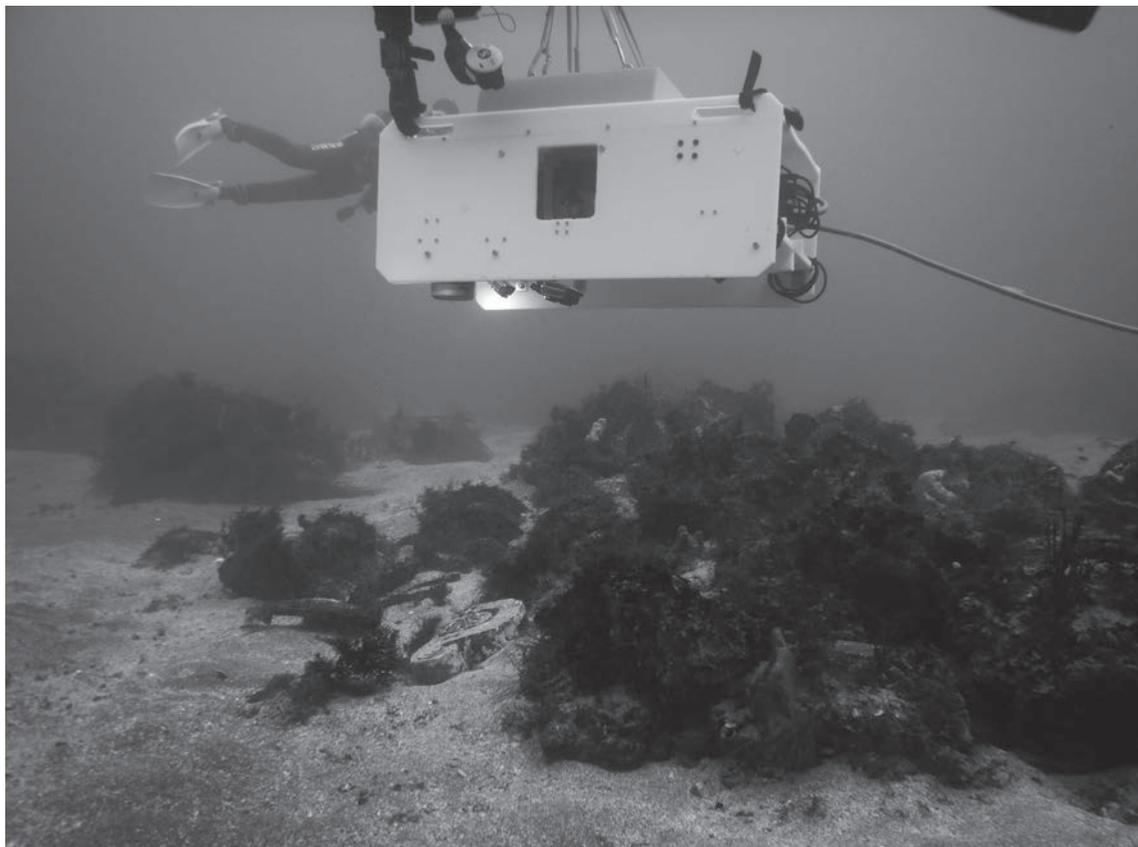
きる装置を開発しています。(写真1) 次は、バーチャル汐路丸を用いた遠隔操船型自律航行船舶実現についての研究です。バーチャル汐路丸は、220°の大型円形スクリーンに航行中の汐路丸からの映像や各種情報を解析することで、仮想船橋を実現するとともに、収集した交通情報をCGで再現することができます。(写真2) また、水中ロボットを用いた沈没船や海・川に沈んだ海底都市の研究があげられます。(写真3) 最後は、三次元重心検知技術による安全な輸送の実現にかかわる研究です。コンテナトレーラトラックの横転を防止する対策として、三次元重心検知技術を開発・応用し、実証実験を行っています。



(写真1)



(写真2)



(写真3)

応用環境システム学専攻 — 博士後期課程 —

海洋科学技術研究科 応用環境システム学専攻 教授

池谷 毅

中高生を対象とした将来の夢に関する調査をみると「研究者」が上位にランキングされています。この文章を読んでいる学生の皆さんの中にも、将来「研究者」になりたいと思っている人がいるはずです。「研究者」になるためには、夢が必要ですが、それだけではなりません。多くの研究分野において「博士」の学位を取得することが必要になります。「博士」の学位は、自立した研究者として研究活動を行う証であり、いわば「プロの研究者」として活躍するために必要な証明書とでもいえる存在です。

東京海洋大学には、「博士」の学位を取得するための専攻として、大学院海洋科学技術研究科に应用生命科学専攻と応用環境システム学専攻の2専攻が設置されています。以下に、私が所属する応用環境システム学専攻について、その概要を紹介します。

本専攻では、海洋環境の解明・利用・保全に関する学理と技術に関連する学際領域の開拓を目指し、海洋環境の変動機構の解明、物質の移流拡散の計測と予測、資源探査技術の創出、海洋生物と環境の関わり方の解明、安全で効率的な海上交通輸送システムの構築、先端的推力システムの開発、海洋管理政策の提言等を教育研究の対象としています。海底の資源、海中の海洋生物、海上・陸上における輸送、衛星を利用した交通管理・海洋観測といった非常に幅広い分野を対象としているため、①海洋環境学、②環境保全システム学、③海洋利用システム学、④ロジスティクス、⑤海上安全テクノロジー、⑥海洋機械システム学、⑦産業政策文化学、⑧海洋探査・利用工学の8つの専攻分野で構成されています。一言で言えば、海底から海上・陸上、そして宇宙までが教育研究の対象ということになります。本専攻の場合、研究室での実験や数値解析だけでなく、本学の所有する練習船や、水圏科学フィールド教育研究センターといった施設を利用した研究が多いのも特徴です。

本専攻の定員は1学年21名で、現在は82名が在籍しています。博士後期課程の修学年限は3年ですが、「博士」の学位にふさわしい研究成果を創出するハードルは高いので、必ずしも3年で修了できない者もいるため、在籍者数が多くなっています。入学者のうち約半数は博士前期課程からの進学者で、多くは本学の博士前期課

程から進学してきます。博士前期課程から後期課程に進学するには、時間的、経済的に困難な場合もありますので、一度社会人となり社会人のまま「博士」の学位のための研究を行う社会人学生の制度もあります。「博士」の学位を目指す社会人学生は現在26名おり、全体の約3割を占めております。仕事と研究を両立させるには困難が伴いますが、長期履修制度を利用したり、仕事が忙しい時期には休学も挟んだりしながら、「博士」の学位取得を目指しています。また、アジアを中心として海外からの留学生も27名在籍しており、ダイバーシティに富んだ環境で研究活動が行われています。「博士」の学位を取得する夢の実現に遅すぎるといえることはありませんし、国境もありません。

博士後期課程では、各研究分野における学術的意義、新規性、独創性、応用的価値を有した研究を主体的に実施する能力を身につける必要があります。そのためには、基礎科学と応用科学に関連する学際的・先端的で高度に専門的な知識が必要となります。また、研究の自律的推進能力、コミュニケーション能力（英語力を含む）、研究成果の論理的・効果的説明能力、学術研究における倫理性も求められます。そして最終的には、海と人間の共生の観点から総合的能力を持ち、指導的な立場に立てる人材となることを目指してもらいたいと思います。

博士後期課程を修了した学生は、その高度な専門知識を活かして、教育・研究職に就く割合が高く、「教育、学習支援業」と「学術研究、専門・技術サービス業」が就職先の6割以上を占めています。確かに昔は、「博士」の数は少なく、活躍する場も、研究・教育にかなり偏っていましたが、最近では、民間企業に勤める「博士」も多くなりました。技術立社を標榜する会社では、「博士」の学位取得を推奨する会社も多くあります。中には、「博士」の学位と技術の国家資格を併せ持ち、経営に携わるビジネスエグゼクティブも多く存在します。しかし、日本の「博士」の学位を持つ研究者、技術者の人口当たりの割合は、諸外国に比較してまだまだ低く、より一層の増加が期待されます。これからも当専攻への入学を希望する学生が増えるように、そして専攻に所属する学生が十分な研究活動ができるように、様々な環境整備を進める必要があると考えています。



グローバル人材育成プログラム

シンガポールでの経験

海洋生命科学部 食品生産科学科1年

藤田 冴英

私は、夏休みの期間、海外探検隊というプログラムで約1ヵ月間シンガポールに滞在しました。シンガポールプログラムは、現地の観賞魚の養殖企業での企業研修とシンガポール国立大学熱帯海洋科学研究所での研究室研修に加え、ホームステイもあり、多彩なプログラムでした。魚に関する研修が多いシンガポールへの派遣が決まった際、魚の知識がほとんどない私は、英語で研修をこなせるのか非常に不安に思うと同時に、これからの大学生活で食品を専門的に学ぶ中で異なる分野の現場を体験できることは貴重な経験になると思いました。

実際にシンガポールでは、企業や研究室での研修だけでなく、現地に活躍されている日本人の方々と一緒に食事をさせていただく機会がありました。今回のシンガポール隊は、1年生4人という社会人交流の経験が浅いメンバーでしたが、私たちなりにどのように接したら良いか模索しながら、今自分たちが興味を持っていることや将来の夢をお話したところ、当初は予定されていなかった食品企業への企業訪問が実現しました。海外での商品開発について伺ったり、実際に研究所を見せていただいたりして、自分たちの将来像が今までよりも明確になったと思います。

全員が食品生産科学科の女子4人で、そして海外探検隊初めての1年生だけのチームということもあり、不安やプレッシャーを感じることもありましたが、それ以上にたくさんの方々に支えられることを実感した渡航でした。1年生の夏にこのような経験をすることができて本当によかったと思います。



左端が筆者

海外探検隊感想記(ベトナム隊)

海洋資源環境学部 海洋資源エネルギー学科1年

田村 智紀

僕は、2018年8月に第11期海外探検隊として、今期から新たに加わったベトナムプログラムのハノイに約3週間滞在しました。その間、たった一人の日本人として従業員をまとめる工場長や、研究活動を行っているハノイ工科大学、ベトナム科学技術アカデミー(VAST)、そしてベトナムの水産業界を担うSEAPRODEXという会社やVASEPという協会など、さまざまな分野で活躍する方々に支えられながら活動することができました。

僕がベトナムで出会った人はみな、日本をよく思ってくれています。日本語が話せる学生や日本に行ったことがある学生、日本のここに行ってみたいと話してくれる人もいれば、度々起こる日本の地震を心配してくれる人も。僕もベトナムの過去は少しだけ勉強してから行きましたが、ベトナムではたくさんの方が日本の今に興味があって、すごく嬉しかったです。同時に僕の海外への関心の低さを痛感しました。

そんな僕も、ベトナムの今を見てきました。現地では、本当にいろんな出会いがあります。それは、今回の研修でお世話になった方々に加え、現地で出会った日本人であったり、学生の友達であったり、さらにはベトナム語しか話せないホストファミリーの大家さんまで。このような人々と交流するのが(交流する機会をつかむのが)、海外探検隊の1つの魅力であると僕は思っています。

で、君は何をしたの?と思った方、ここには書き切れないので、本学のグローバル教育研究推進機構が発行している活動報告書「海外探検隊」をぜひご覧ください!(本学HPでもみられます! <https://www.kaiyodaiglobal.com/ebook/>)



右から4番目が筆者



海外留学体験記

海外インターンシップに参加して

海洋工学部 海洋電子機械工学科3年

南井秀孝

夏休みにシンガポールの海技系大学、シンガポール・マリタイム・アカデミー (SMA) での海外インターンシップに参加させて頂きました。約一週間滞在し、現地の学生と共に大学の授業を受け、また外部の施設を見学するなどしました。

SMAはSingapore Polytechnic (SP) という技術系教育に特化した大学の一部で、Nautical studies (航海科)、Marine engineering (機関科)、Maritime business の3つの学科を持ちます。SP全体ではおよそ40の学科があり、学生数の多さ、敷地の大きさには驚きました。敷地内にいくつかあるカフェテリアには様々な種類の店があり、日本食のお弁当を提供している店もありました。

技術系教育に特化しているということもあり、東京海洋大学でいう実習の授業が多く、内容も高度でした。3年生の実習ではターボチャージャーやピストンポンプ、燃料噴射弁の解放・復旧を行いました。1年生の実習には鉄板の加工方法を学ぶ実習や、ガス溶接で鉄製の容器を作成する実習がありました。ガス溶接の実習では、一人一人に溶接台が用意されていることに驚くと共に、準備や作業に慣れている学生を見て、職場で必要な技術をこのような実技を通して身につけられることを羨ましくも思いました。

このインターンシップを通して、やはり英語力が無いと世界では通用しないと痛感しました。この気持ちを胸に、今後よりいっそう勉学に励みたいと思います。このような貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございました。



SMAでの集合写真 (左から2番目が筆者)

海外インターンシップに参加して

海洋工学部 流通情報工学科3年

西亀貴之

私は8月に東京海洋大学のOBがCEOをやっているタイの会社に海外インターンシップをさせてもらった。この海外インターンシップで得られたことはとても多くかけがえのないものとなった。その中のいくつかを紹介したいと思う。

東京海洋大学のOBである森田さんの会社であるオギハラタイランドカンパニーはトヨタ自動車などに部品を卸したり、金型の加工などを行っている会社である。

オギハラタイランドカンパニーではトヨタ自動車の生産方式であるかんぱん方式を採用している。かんぱん方式は非常に特殊な生産方式で世界的に有名である。徹底的に「ムダ、ムラ、ムリ」を取り除き、「必要なものを、必要な時に、必要な分だけ」供給することにより生産の効率を極限まで高めた方式で、効率性を高めた生産方式の最終形態ともいわれており、海外でも多く採用されている。インターンシップでは、かんぱん方式を実際に使用している工場を2か所見学させてもらった。一人一人の作業がはっきりと割り当てられており、目に映るすべての従業員が手を休めることなく作業を行っていた。部品が渡されてから、部品を加工して次の作業員の手にはわたる一連の動きには、川に流れる水のように無駄がなく見ていて飽きることのない動作だった。

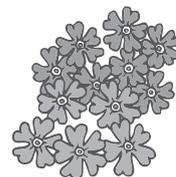
かんぱん方式のことを知っていたからこそ、一連の流れに無駄のないことに気づくことが出来たため、工場見学を楽しみと感じることが出来た。ただ、工場見学をただだけではきつと楽しむことが出来なかったと思う。

これから大学で多くのことを学んでいくことになると思う。学んでいる最中はつまらないと感じることもあるだろうが、学んだ知識を活かした時の喜びは非常に大きい。ぜひとも、選り好みすることなく多くのことを学んで欲しい。



後方中央が筆者

卒業生より



業界で活躍している OB・OGの方々

水産業界での品質管理の仕事

2010年3月 海洋科学部 食品生産科学科 卒業
2012年3月 海洋科学技術研究科
食機能保全科学専攻 修了
2012年4月 東洋冷蔵株式会社

田 辺 菜穂子

私は大学院卒業後、水産物を扱う製販一体型企業である東洋冷蔵株式会社に就職し、品質管理の部署で働いています。私の部署では、自社製品の一括表示や販促資材の内容チェック、お取引先様に提出する商品規格書の内容チェック、商品お申し出に対する対応のとりまとめ、自社工場・委託先工場の監査・衛生指導を中心に行っています。

学生の皆さんの中には、海洋大を卒業してそのまま水産業界に進むのがいいのか、全く違う業界に行くのがいいのかという点で迷っている人もいるかもしれません。私は正直なところ、自分が卒業後にどのような仕事をしているのかあまり想像がついていませんでした。就職活動中は研究職や検査職、品質管理職を中心にエントリーしつつも、地方公務員や大学職員の試験も受けていました。そんな中、大学の就職支援課に来ていた東洋冷蔵の事務職の募集を見て採用試験を受けたところ、品質管理部門に人員を追加したいので職種変更して再度面接を受けないか、というお話をいただいたことがきっかけになり水産業界で品質管理の仕事をする事になりました。日常業務では事務所で書類と向き合う仕事を行う一方で、工場監査のために国内外の工場へ出張する機会も多く、生産ラインで大量の水産物が次々に加工されて製品になっていく様子の間

近で見ることが出来ます。また、生産工程や製品規格を決める際にどのような検証実験をすれば良いかと生産部門や営業部門の方から相談を受けたり、商品お申し出の対応をする際に原因調査・再発防止策の構築を支援したりする場面もあり、大学の講義や学生実験、研究室での活動を通して経験したことが、少しずつ今の仕事に結びついていると感じています。一方でそのようなスキルは、扱うものが水産物以外であったとしても十分に通用するものだと思います。

就職等で一つの組織に属すると自由に見ることができない世界は狭まります。一方で、その組織に属することでしか見ることのできない世界もたくさんあります。自分のやりたいことが明確になっている人も、まだ漠然としている人も、あまり自分のことを型にはめ過ぎず、色々な分野で活躍している自分を想像して学生生活を有意義に過ごしてもらえればと思います。



“きっかけ”から広がる世界

2009年3月 東京海洋大学海洋工学部
海洋電子機械工学科 卒業
2009年4月 日本海洋事業株式会社 深海技術部 入社

浅 井 隆

大学生時代の私は、船はおろか海に関わる仕事に全く関心がありませんでした。特にやりたい事があったわけでもなく、何か見つけられるかな？程度の気持ちで、大学院に進むことを考えたこともありました。

そんな中、ある授業を通じて、ロボットアームに興

味を持ちました。丁度その頃に観た映画「日本沈没」の影響も受け、“深海でロボットアームを使う仕事”に導かれていきました。インターンシップや卒論、会社見学を通じて深海調査というものに触れ、深海調査機器に関わる仕事に携わりたい気持ちが増していき、現在の仕事に就きました。

私が入社した日本海洋事業は、主に国立研究開発法人海洋研究開発機構の船舶及び水中機器の運用管理の委託を受けており、日々海洋調査・研究成果に貢献しています。その中で私は、深海調査機器の運用・整備・管理を行っている深海技術部に配属となり、主に船上から遠隔操縦を行う無人探査機を担当しています。

晴れて深海機器を扱うことになったのですが、そこには船社会独特の共同生活や船酔いといった「環境の壁」、言うまでもなく作業ひとつひとつに重要な責任を負う「社会の壁」が存在しました。緊張の連続の中で、

時には致命的な失敗も経験しました。

それでも、今日までこの仕事をしているのは、大学の寮生活で無意識に培われた“船体質”に救われていることは間違いありません。そして何より「深海」が相手という、他では味わえない特別感を得ているからだと思います。

今年で入社10年目となり、機器の機能向上を目的とした改造設計や新たな機器の開発設計にも携わる機会が増え、より一層“やりがい”を感じています。

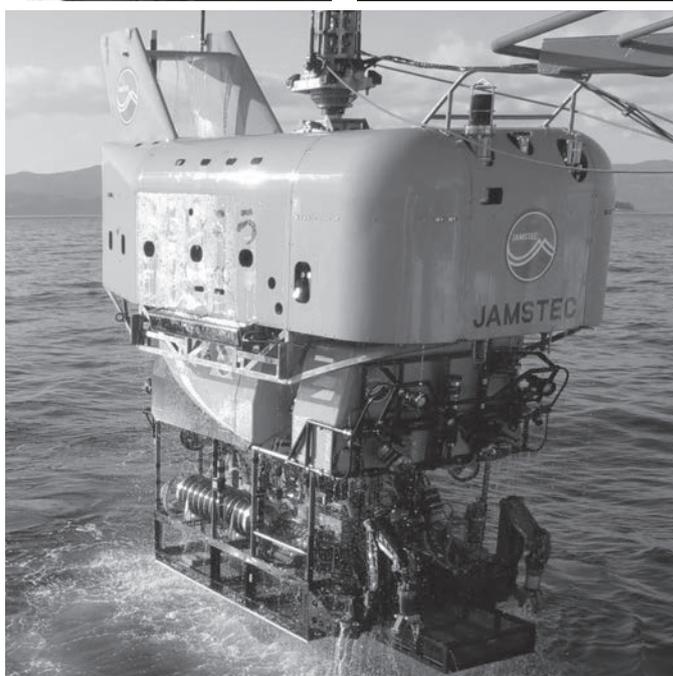
私のように、将来の展望が漠然としている学生の皆さんもいるかと思います。何か一つでも興味や関心があれば、覗いてみてください。それを“きっかけ”に世界が広がっていくことがあります。偉そうなことは言えませんが、「自分の“気になる”気持ちを大切に」過ごして頂ければと思います。



船上での作業風景



オペレーション風景



入社以来担当している無人探査機「かいこう」

実行委員長から



海鷹祭の実施報告

海鷹祭を終えて

第59回海鷹祭実行委員会委員長
海洋科学部 海洋環境学科3年

西見 耕 汰

第59回海鷹祭実行委員会委員長の西見です。今年度の第59回海鷹祭も無事に開催することができました。今年度海鷹祭は三連休であった昨年度の約17,000人の来場者数を3,000人ほど上回り19,437人もの方々にご来場いただきました。三日目の天候は午後からあいにくの雨でしたが、予測を超えて多くの方々にご来場いただき大変うれしく思います。

今年度のテーマは「水天一碧」でした。水天一碧とは、空が晴れ渡り、空と海の境がわからないほど一面の青色を表している言葉です。当日の好天を期待したことと、来場者、参加団体の方々、委員の壁がないオープンな学園祭にしようという意味が込められております。三日目の午後から天気が崩れてしまいましたが、全員に楽しんでいただけた海鷹祭であったように思います。

そして、今年度の海鷹祭は昨年と変わったところも多くありました。毎年一般公開をしている登録有形文化財の雲鷹丸を東京文化財ウィークに参加させていただき、より多くの方々に雲鷹丸を知っていただきました。また、今年度から海鷹祭実行委員に加え、入試課の方にもご協

力いただき、本学に興味を持っていただいている方と実際の大学生活についての相談会と入試相談会を開催し、こちらも多くの方々に訪れていただきました。さらに、海をモチーフにしたハ

ンドメイドのアクセサリなどが集まるうみかマルシェも例年一階のみの会場を二階にまで拡大し、昨年度よりさらなる大盛況で終えることができました。これらパワーアップした企画に加え、海鷹祭実行委員で販売しているマグロのづけ丼やAJDtuna様並びにマルニ水産様にご協力いただいているクロマグロの解体実演、本学名誉博士・客員准教授であるさかなクンのトークショーなども例年以上の盛り上がりを見せておりました。

私は一年間委員長を務めていた中で外部の方々とお話しする機会を多く経験しました。ご協力いただいている方からは毎年の海鷹祭についてご意見をいただいたり、地域の方々からは毎年来ていて今年も楽しみだと言葉をいただいたり、多くの学園祭を取材している方からはこんなに特徴的な学園祭は他にはないと言葉をいただきました。このような経験を通してほんとうに多くの方々にご協力いただいていることを痛感しました。また、海鷹祭は唯一無二の学園祭であることを実感しました。そんな海鷹祭を今年度も無事に開催できたこと、多くの方に楽しんでいただけたこと、海鷹祭に携われたことを誇りに思います。

最後にはなりますが、ご協力頂いた企業様、大学関係者の皆様、各出店団体の皆様、またご来場いただきました多くの方々に深く御礼申し上げます。また、来年度第60回海鷹祭と海鷹祭実行委員会もどうぞよろしくお願い申し上げます。



学生の

課外活動報告

ダンス部

ダンス部EXSEADは東京海洋大学品川キャンパスで週に2回練習を行なっています。活動時間は主に18時30分～21時30分となっていますが、その他の曜日や時間にもみんなで練習したり、各々自主練したりしています。大学からダンスを始めたいという初心者の人にも先輩が丁寧に教えてくれ、入部当初は初心者だった人も、後輩にしっかり教えてあげられるぐらい上達することができます。

EXSEADは年間で4つのステージを行います。その中でも、自分たちで場所を借りて行う1年生のデビューイベントと、品川キャンパスで行われる海鷹祭でのステージ発表が特に大きなイベントとなっています。1つのイベントに向けて一丸となって練習し、やりきった後の達成感はなかなか味わうことのないものだと思います！これからも部員全員の技術の向上、さらにはみなさんに楽しんでいただけるようなダンスを踊ることも目指し、頑張っていくつもりです。ぜひイベントの際は応援宜しくお願いします。



越中島硬式庭球部

越中島硬式庭球部は、4年9名・3年6名・2年12名・1年7名の計34名で、週3回約2時間の活動を行っています。

コートが4面ある練習環境を活かし、全員がコートでテニスをできます。部員には大学からテニスを始めた人も多いため、個々のレベルに合わせて先輩がアドバイスをしてくれます。オフの日でも各々が目標に向けて好きなだけ自主練習を行えるため、経験を問わず納得いくまで成長できます。加えて、国公立戦・個人戦・理工科のリーグ戦に向け、週末には練習試合などの実戦的な練習もしています。

技術向上だけでなく、仲間同士のコミュニケーションも大切にしており、お互いの考えを共有する時間なども設けています。レギュラー争いなど、時にはライバルとして切磋琢磨することで仲間同士を尊敬でき、技術的にも精神的にも成長できます。個々の目標を全員が応援し達成していく喜びを糧に、日々の練習に取り組んでいます。今後とも越中島硬式庭球部を宜しくお願い致します。



ニュース

&

トピックス

「平成30年度父母等懇談会」を開催しました

●越中島キャンパス

平成30年6月2日（土）、越中島キャンパスにおいて、海洋工学部の父母等懇談会が開催されました。

始めに教育・学生支援担当の稲石副学長より開会の挨拶があり、続いて塚本海洋工学部長より、海洋工学部の修学支援、就職率・大学院への進学率、学生の海外体験について説明がありました。

続いて、海事システム工学科、海洋電子機械工学科、流通情報工学科の学科主任等より、各学科の教育内容、就職、進学等について説明がありました。

最後に、國枝海洋工学部副学部長・海洋工学部後援会理事より、優秀学生の奨励、課外活動支援、教育研究補助等、後援会の活動について報告しました。

ご参加いただいた皆様より、熱心な質問且つ貴重なご意見をいただき、有意義な懇談会となりました。



稲石理事・副学長の説明

●品川キャンパス

平成30年11月4日（日）、品川キャンパスにおいて、父母等懇談会が白鷹館1F講義室で開催されました。

大学からは、稲石理事・副学長（教育・学生支援担当）、佐藤海洋科学部・海洋生命科学部長、田中海洋資源環境学部長ほか学科主任等の教職員が出席し、大学の現状や

教育・学生支援等の最新情報について報告しました。

今年度は約200名の父母等のご来場があり、大学からの説明に熱心に耳を傾けておられました。また、質疑応答では数多くの質問が寄せられ、大変有意義な懇談会となりました。



稲石理事・副学長の説明



田中学部長の説明を熱心に聞く来場者

「海の日」記念行事を開催しました

一般の方々に海に親しみ・興味を持っていただくとともに、本学の教育研究活動をわかりやすくご紹介するために、7月16日の「海の日」に越中島・品川の両キャンパスで記念行事を開催しました。

越中島キャンパスでは、毎年大好評の電池推進船「らいちょうN」と調査・研究船「やよい」の体験航海、学生サークル海事普及会による「越中島キャンパス史跡めぐり」、「光の工作-LEDピンバッチの作成-」などを行いました。

品川キャンパスでは、「海の生き物・金魚のタッチングプール」で魚を観察したり、「燃える氷、メタンハイドレート」では、メタンハイドレートペレットの冷たさを体験した上で燃やすという実験を行いました。また、マリンサイエンスミュージアムでは、学芸員の資格取得を目指す学部学生の展示説明がありました。

その他、両キャンパスで教育研究に関するイベントや体験教室等が数多く行われ暑いなか3,000人近くの来場者が訪れとても賑やかな一日となりました。



電池推進船らいちょうN 体験航海



燃える氷、メタンハイドレート

平成30年度9月期学生表彰授与式を行いました

平成30年9月27日、品川キャンパスにおいて、研究活動において特に顕著な業績を挙げたと認められる大学院学生3名及び社会活動において優れた評価を受け

本学の名誉を著しく高めたと認められる学部学生1名に対する表彰状及び記念品の授与を行いました。



竹内学長（前列中央）と受賞した学生達

平成30年度9月期学位記・修了証書授与式を行いました

平成30年9月28日、越中島キャンパス越中島会館講堂にて、平成30年度9月期東京海洋大学学位記・修了証書授与式が執り行われ、学部卒業生7名、乗船実習科修了生45名、大学院博士前期課程修了生32名、博士

後期課程修了生17名の計101名に学位が授与されました。

ご来賓、卒業生・修了生のご家族・ご友人など多くの方々が参列され、卒業生・修了生の門出を祝いました。



34

平成30年度10月期大学院入学式を行いました

平成30年10月5日、品川キャンパス楽水会館大会議室にて、平成30年度10月期大学院入学式が執り行われ、大学院海洋科学技術研究科の博士前期課程38名、

博士後期課程13名の計51名が東京海洋大学生として新たな一歩を踏み出しました。



海鷹丸(うみたかまる)が第56次航海(遠洋航海)、第22次「海鷹丸」南極海観測航海に出港しました

平成30年11月12日(月)、本学練習船海鷹丸が、第56次航海(遠洋航海)に向け、豊海(とよみ)水産埠頭を出港しました。

船内において行われた出港式では、竹内学長の挨拶に続いて、文部科学省研究開発局海洋地球課小酒井極域科学企画官、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所中村所長にご挨拶を賜り、その後、野田船長から出港の挨拶が行われました。

出港直前には、本学OB・OGで構成される楽水会雲鷹丸合唱団による校歌や水産逍遥歌、スタンバイの歌などが歌われ、学生、乗組員を激励しました。

海上では本学カッター部の見送りを受け海鷹丸は出

港しました。

第56次航海(遠洋航海)は、水産専攻科が実施する三級海技士免許(航海)の取得に向けた、水産学教育の“総仕上げ”として行われるものです。乗船する水産専攻科学生43名はインド洋にてマグロ延縄(はえなわ)実習や海洋調査等を行った後、フリーマントル(オーストラリア)に入港します。その後、研究者が合流し、第22次「海鷹丸」南極海観測航海に出港。平成31年2月25日に帰港しました。

また、本航海では、最初の寄港地であるインドネシアのベノアにて東南アジア各国の学术交流協定校との交流シンポジウムを開催しました。



学長挨拶



海鷹丸を見送る、本学カッター部



平成30年度国際交流懇談会を開催しました

東京海洋大学では、留学生、日本人学生、教職員、同窓会の親睦と一層の国際交流を図ることを目的として毎年懇談会を開催しています。本年度は、平成30年12月7日（金）に品川キャンパス生協で開催し、169名が出席しました。竹内学長の開会挨拶の後、楽水会常務理事の谷口泰史様からご挨拶及び乾杯のご発声をいただき、懇談会が始まりました。また、懇談会後半では、留学生を代表して博士後期課程2年生のラジブロチャン ポウデルさん（ネパール）が挨拶を行った後、学生達による出し物が行われ、懇談会は一層の盛

り上がりを見せました。最後に、全員で東京海洋大学校歌を歌い、東海国際担当理事の挨拶でお開きとなりました。

【学生達の出し物】

- ①クイズ（国際交流サークルの皆さん）
- ②ジャズダンス（MC1年・楊 雨薇さん、交換留学生・張 力文さん(中国)）
- ③歌「春天的芭蕾」（MC1年・楊 雨薇さん、MC1年・王 傲然さん(中国)）
- ④歌「涙そうそう」（MC2年・銭 冬妍さん(中国)）



竹内学長の挨拶



盛り上がった学生のパフォーマンス



留学生代表挨拶



歓談の様子

サークルリーダーシップ研修会を開催しました

平成30年12月17日（月）に品川キャンパスの白鷹館1階講義室でサークルリーダーシップ研修会を開催し、学生や顧問教員など総勢90名が参加しました。

この研修会は、各課外活動団体の学生代表者と顧問教員が、リーダーシップのありかたについて講演やワークショップを通して理解を深めることを目的としたものです。今年は、元サッカー日本代表・NHKサッカー解説者の福西崇史氏を講師にお迎えして開催しました。

亀谷学生支援委員会副委員長による開催の挨拶の後、福西講師から「プロの世界で生き抜くために ～組織の中で自分を生かす～」をテーマに講演していただき、その後、「自分のサークルを世界一にするためにはどうすれば良

いか」を各サークルで考え、その結果を発表しました。

学生からは、「リーダーとしてどのような対応をしていくことが良いかということが分かった。グループワーク形式は新しい考え方で、周りがどこまで考えているのかを聞いて良かった。」「プロの話を生で、この時どう思ったか、どういう風に生きてきたか聞けるのは自分の専門ではなくともとても貴重だった。」「コミュニケーションは人を知れるのかどうかという言葉が印象に残った。また、自分自身の能力を知り、それを発信することも同等に大切だということがわかった。」などの感想が寄せられ、リーダーシップについての理解を深める内容の濃い研修会となりました。



福西講師による講演の様子

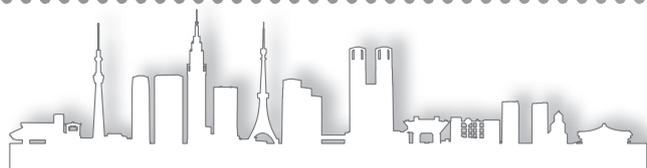
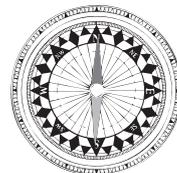


学生との質疑応答

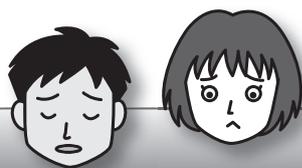


福西講師と亀谷学生支援委員会副委員長・参加学生

学生相談室からの



お知らせ



学生相談室について

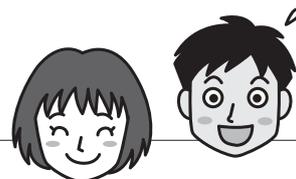
学生相談（カウンセリング）

学生生活、進路、対人関係で悩みがある場合は、専門カウンセラーが相談に応じます。

話をしてみることで、あるいは自分の思いを表現し

てみることで、思いのほか気持ちが楽になったり、次への展開へのきっかけが見つかったりもするものです。相談内容についての秘密は厳守されています。

品川キャンパス

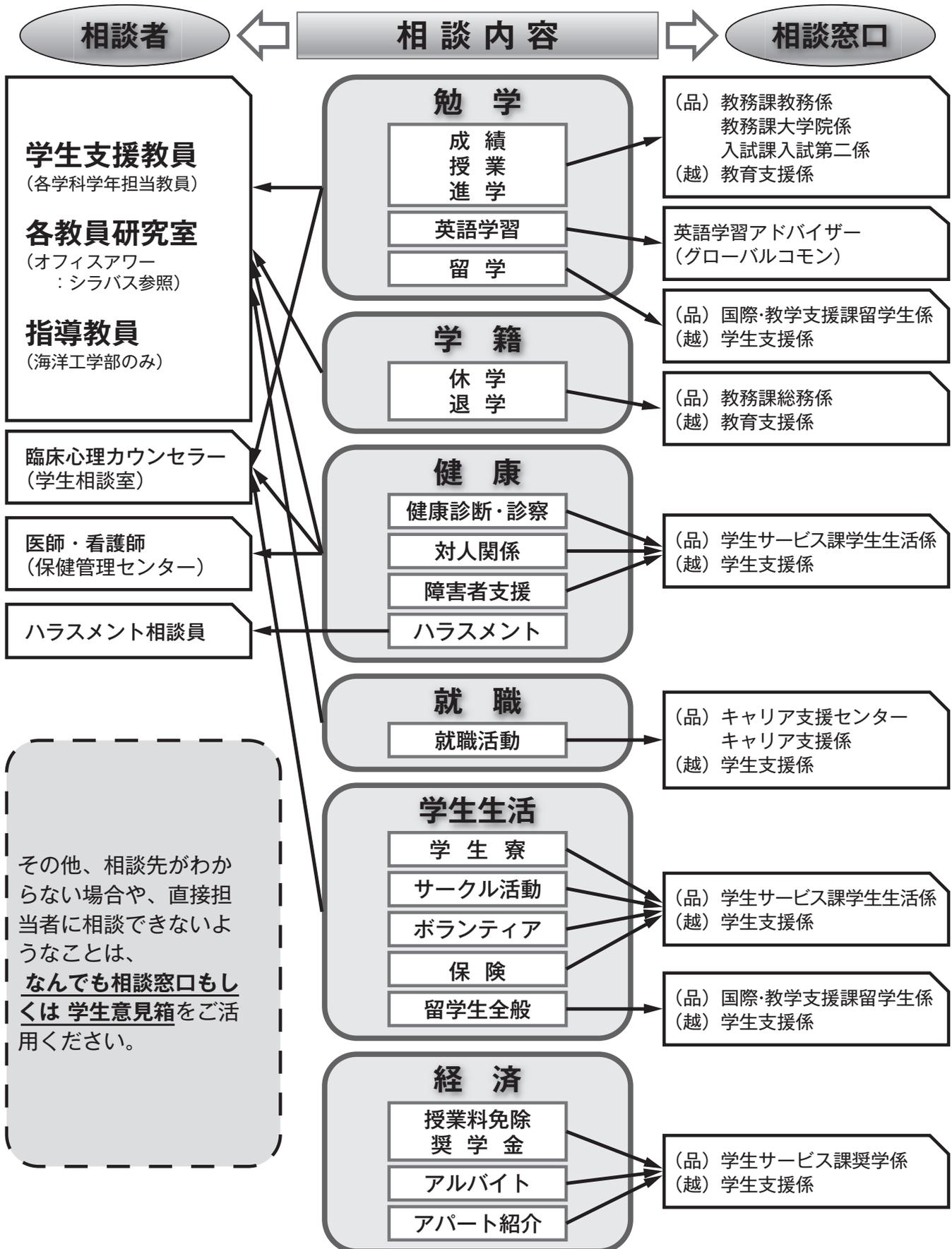


場 所	大会館 1 階学生相談室
日 時	水曜日 12:30 ~ 16:30 木曜日 12:00 ~ 16:00 ※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ — 「在学生の方へ」 — 「保健管理センター」 — 「学生相談」
相 談 員	染谷先生（臨床心理カウンセラー（女性）・水曜日担当） 高井先生（臨床心理カウンセラー（女性）・木曜日担当）
予約方法	直接相談室においでくださるか、メールでご予約ください。 メール s-counseling@o.kaiyodai.ac.jp

越中島キャンパス

場 所	越中島会館 1 階 学生相談室
日 時	水・金曜日 12:00 ~ 16:00 ※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ — 「在学生の方へ」 — 「保健管理センター」 — 「学生相談」
相 談 員	善積先生（臨床心理カウンセラー（女性）・水曜日担当） 河崎先生（臨床心理カウンセラー（女性）・金曜日担当）
予約方法	直接相談室においでくださるか、保健管理センターでご予約ください。 1. 窓口にて 2. 電 話 03-5245-7357（保健管理センター事務室） 3. メール e-hoken@o.kaiyodai.ac.jp

学生相談体制について



お知らせ

就職支援体制について

平成31年4月より新たにキャリア支援センターを設置し、学生への支援として開催している「就職ガイダンス」、「企業説明会」、「公務員試験対策講座」及び「各種就職関連テスト」の実施、留学生に特化した「進路ガイダンス」、職業観の涵養を目的とした企業による業界セミナー及びエントリーシート添削・面接対策などの個別就職相談を更に充実させるとともに、学生の就職に対する意識の向上を促し、教学と学生支援の協働を緊密に行い進路支援体制の強化を図っています。

学部生対象のキャリア教育としては、インターンシップへの参加を意識させることにより、様々な形での社会からのニーズに触れ、学生が自分のキャリアデザインに

資する機会を設けています。学部で開講する「グローバルキャリア入門」、「キャリア形成論」等のキャリア関連科目は、キャリア開発に関する講義や産業界で活躍する人材をゲストスピーカーとして招くとともに、学部の特色に応じた社会的な情勢を学生に伝え、キャリア形成に向けた動機付けを高める内容となっています。

また、特に大学院生に特化したキャリア教育としてはキャリア相談等の支援体制を充実させ、特任教授によるキャリア開発に関する講義や企業や団体の第一線で活躍する方を講師に迎えて実施する「高度専門キャリア形成論Ⅰ・Ⅱ」の開講などにより、キャリア開発支援に取り組んでいます。

図書館からのお知らせ

東京海洋大学「古本募金プロジェクト」のご案内

— 眠っている本で母校を応援しませんか? —

このプロジェクトは、利用し終えた書籍、CD・DVDやゲームソフトなどをお送りいただくことで、その買い取り額を寄附金として本学に受け入れ、学生の教育・研究活動に役立てる取り組みです。

在校生・卒業生、その親族の方のほか、どなたでもお申し込みいただけます。読まなくなった本を整理したい方、ぜひ、東京海洋大学「古本募金プロジェクト」をご利用ください。

■申し込み方法：箱詰めして電話するだけ。

不要になった書籍等を段ボール箱に入れ、提携会社バ

リューブックス（電話：0120-826-292）に連絡してください。宅配業者が受け取りに参ります（5冊以上なら送料はかかりません。1回の申込みで3箱まで）。

【注意】以下の本は取り扱えませんので、ご了承ください。

※ISBNのない本、百科事典、コンビニコミック、個人出版の本、マンガ・一般雑誌など

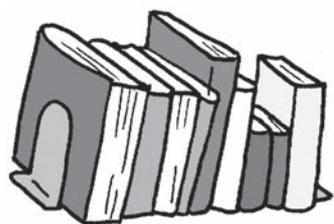
詳細は、東京海洋大学古本募金サイトをご覧ください。

<http://www.furuhon-bokin.jp/kaiyodai/>

図書館には、古本募金プロジェクト用の回収ボックスもありますので、冊（点）数が少ない場合は回収ボックスをご利用ください。

直接図書館に書籍等を寄附される場合は、各キャンパスの図書館にご連絡ください。

本学の教育・研究環境充実のため、皆様のご協力をお願い申し上げます。



「大津皓平文庫」開設のお知らせ

2018年6月、越中島キャンパス図書館内に「大津皓平文庫」が設置されました。

故大津皓平名誉教授のご遺族からの寄贈図書と、寄付による購入図書が収められています。

今後、一層蔵書の充実を図っていきます。貸出可能ですのでどうぞご利用ください。



国立科学博物館および国立美術館の利用について

本学は、「国立科学博物館 大学パートナーシップ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しております。

本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が無料で利用できるほか、特別展・企画展を割引料金で鑑賞できるなどの特典があるので、ぜひご利用ください。

◆国立科学博物館 大学パートナーシップ利用可能施設

施設名	住 所
国立科学博物館(上野公園)	東京都台東区上野公園7-20
附属自然教育園	東京都港区白金台5-21-5
筑波実験植物園	茨城県つくば市天久保4-1-1

◆国立美術館 キャンパスメンバーズ利用可能施設

施設名	住 所
東京国立近代美術館	東京都千代田区北の丸公園3-1
国立西洋美術館	東京都台東区上野公園7-7
国立新美術館	東京都港区六本木7-22-2
国立映画アーカイブ	東京都中央区京橋3-7-6

国立劇場の利用について

本学は「国立劇場キャンパスメンバーズ」に加入しています。

学生証を提示することで、国立劇場・国立演芸場・国立能楽堂主催の歌舞伎、文楽、演芸、能楽などの公演を、一般料金の半額で鑑賞することができます。また、イヤホンガイドや公演プログラムも割引利用・購入ができます。

本制度についての詳細、対象公演及びキャンパスメンバーズ特典については、国立劇場ホームページを参照願います。

https://www.ntj.jac.go.jp/kokuritsu/campus_members.html

◆(例) 歌舞伎公演の料金

等級	一般料金	キャンパスメンバーズ料金
特別席	12,500円	6,300円
1等A席	9,800円	4,900円
1等B席	6,400円	3,200円
2等A席	4,900円	2,500円
2等B席	2,700円	1,400円

※料金は平成31年1月現在のものです。

◆イヤホンガイドや公演プログラムの割引価格

イヤホンガイド：通常料金から150円割引。

公演プログラム：通常料金から100円割引。

※歌舞伎・文楽公演のみ対象

緊急時連絡システムについて (さくら連絡網)

—緊急時連絡システムとは—

本学のすべての学生・教職員と緊急時に連絡をとるためのメール・LINEの配信システムです。

1. 台風・地震等の自然災害やインフルエンザ流行等による緊急の休講等を連絡します。
2. 災害時の安否確認や健康状態の収集手段としても使用します。
3. その他、掲示板で告知するお知らせの中で緊急性があり重要と判断するお知らせ等の連絡をします。

—登録方法—

緊急時における大学からの連絡を確実かつ速やかにご確認いただくため、携帯電話・スマートフォン等の携帯端末及び自宅PC等の複数のメールアドレス（4件まで）またはLINEの登録を行ってください。

登録手順は以下のとおりです

1. さくら連絡網登録用QRコードまたはURLにアクセスします。

QRコードはこちら →



URLはこちら → <http://390390.jp>

URLを直接入力した場合は、
認証コードの入力を求められます。

認証コード：204 441 4

2. 大学からの連絡を受け取りたい方法を【LINE】または【メール】から選びます。
（※両方登録することもできます。）

3. 【LINE】を選んだ場合

①LINEの友だち追加ボタンから登録（追加）します。（トークから登録開始）

②認証コード：204 441 4 を入力します。

③IDとパスコードを入力します。

【メール】を選んだ場合

①登録用メール送信画面に切り替わるので、そのまま送信します。（※メール本文は変更しないでください。）

②さくら連絡網からメールで登録用のURLが届きます。

③URLにアクセスして、登録画面からIDとパスコードを入力します。

4. メニュー画面（以下、マイページといいます）が表示されたら登録完了です。

—メール受信時の注意—

※緊急時連絡システムではメール・LINE受信者が開封したかどうかの確認が取れるシステムになっています。

また、アンケート形式で安否確認を行う場合もあります。受信した場合は必ず開封し、内容を確認した後、指示に従い回答を行ってください。

※登録用メールが届かない場合は、ドメイン指定受信にschool-i.netを追加登録して下さい。

※マイページ (<https://390390.jp/parent/menu>) をブックマーク（スマートフォンの場合はホーム画面に追加）しておく、後日、メールアドレスの変更等を行う際に便利です。また、簡単ログイン設定をしておく、次回からワンクリックでマイページにアクセスできるようになります。

※配信先の変更を希望する場合やアドレス自体を変更した

場合は、マイページのメニューの「連絡先を追加」から新しい連絡先を追加し、「登録情報確認」から古い連絡先を削除して下さい。

※ログインID、パスコードは各自で管理してください。

※パスコードを紛失した場合は、以下の問合せ先へご連絡ください。

※緊急時連絡システムは、大学からの送信専用アドレスです。上記のアンケート形式での回答以外は、大学側では内容の確認ができませんのでご注意ください。

—個人情報取り扱いに関して—

緊急時連絡システムにご登録いただきましたメールアドレス等、個人情報に関しては本学個人情報保護規則に法り厳正な取扱いをいたします。また、上記の目的に限り使用し、他の目的で使用することはありません。

EMERGENCY CONTACT SYSTEM

“さくら連絡網 (SAKURA RENRAKUMOUREGISTRATION)”

What is the Emergency Contact System?

The purpose of this system is to contact students, professors and university staff members by email in the following cases:

1. to inform them when classes are suddenly canceled due to a natural disaster (typhoon, earthquake), a flu epidemic or other reasons
2. to gather information about the safety and health of university members after a disaster
3. to inform urgent and important information displayed on the university's notice boards

How to register

Please register multiple mail addresses (up to Four) or LINE of mobile terminals such as mobile phones, smart phones, and home PC in order to confirm the correspondence from university in emergency surely and promptly.

Registration proces

1. Access the QR code or URL for Sakura Renrakumouregistration.

QR code



URL

<http://390390.jp>

If you enter the URL directly,
you will be prompted to enter
the authentication code.

code : 204 441 4

2. Choose a method by which you would like to receive from the university, “LINE” or “Email.”

*You can also register both.

3. When you choose “LINE”,

- ① register (add) from LINE's Add Friends button. (i.e.,start from “Talk” page).
- ② input Authentication code: 204 441 4.
- ③ input ID and Passcode.

When you choose”Email,”

- ① the page moves to the registration mail sending screen, please send the mail.
*Please do not change the mail body.
- ② receive an email for registration from from Sakura Renrakumou.
- ③ access the URL and enter the ID and passcode on the registration screen.

4. Registration is completed when the menu screen is displayed.

Notes

- The system is configured to detect whether recipients have accessed their messages. It is also used to gather information about the safety of the registered community through questionnaires. When you receive it, please ensure that you open the message and reply according to the instructions.
- If you fail to receive the registration form after sending a registration email, please check your mobile phone's spam filter settings. Add the domain name school-i.net to your list of authorized contacts.
- Add the system login page (<https://390390.jp/parent/menu/>) to your bookmarks to easily access your email and passcode settings.
- Manage your ID and passcode carefully, and make sure that you change your passcode after logging in for the first time.
- To change your delivery settings, register a new email address.
- If you forget your passcode, contact the responsible section using the contact details below.
- The system is a send-only address. Please keep in mind that the university cannot receive emails sent to this address.

Privacy policy

Email addresses and other personal information registered on the system are strictly protected according to the university's privacy policy. The system is used exclusively for the purposes stated above.

Contact

General Affairs Department, General Affairs Division

Email: so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp Tel: 03-5463-0354

ネットワーク障害防止のための注意事項

重要!

キャンパス内で、ネットワーク停止が頻発しています。
研究室内の配線の点検をお願いします。



ループ状にケーブルを接続しない

ケーブルの両端をネットワーク機器に接続すると、出口のない通信パケットがネットワーク内で増大し、フロア全体や建屋全体が通信不能になるなどの重大な障害が引き起こされます。利用しないケーブルは機器から取り外してください。

古いハブ、壊れたLANケーブルを使用しない

古くなったプラスチック製のハブ(HUB、Switch)は、熱暴走等でフロア全体の通信障害の原因となることがあります。壊れた配線やコネクタの損傷も通信トラブルの原因になる場合があります。導入後の年数や破損状況などを確認し、適宜、買い替えましょう。

→**金属製ケースのハブがオススメ**です。放熱に優れ、安定して長く使えます。
詳しい型番などは下記窓口にお問い合わせください。

研究室内のルータの設定・接続を正しく行う

研究室で個別に設置したブロードバンドルータ、無線LANルータのDHCP機能の誤設定により、フロアや建屋全体での通信障害につながる場合があります。ネットワークケーブルが正しく接続されているかを点検してください。

→ **「WAN」「LAN」を間違えると障害が発生します!**

古いOAタップの使用、定格電流を超えた使用や、
夕コ配線は**火災の原因になります**ので、注意してください。



44

注意

PCは最新の状態にアップデートしてください

OSの脆弱性を狙ったウイルスによる情報漏えい被害が世界的に報告されています。利用しているOSやウイルス対策ソフトを常に最新の状態を保つようにしてください。私有のノートPCでも、大学配布のウイルスバスターをインストールすることができますので、是非活用してください。

Windows XP、Vista、8 及び Mac OS Xは、メーカーのサポートが終了しています。これらのOSをお使いの場合は速やかに最新のOSに更新してください。

現在利用可能なOSは、Windows10、Windows8.1、Windows7、macOS(High Sierra)です。

PC等を廃棄する際はデータの消去をしてください

廃棄するパソコン等からの情報流出を防ぐため、ハードディスク、SSD等の記録媒体の破壊装置、消去装置を利用してください。下記窓口にお持ちください。

情報システムに関する全学問合せ窓口

メール ict-support@o.kaiyodai.ac.jp 内線 0446

附属図書館(品川) 1階事務室内 (担当: 学術情報課情報企画係)

大学配布ソフトウェアの入手方法 <http://support.ipc.kaiyodai.ac.jp/>

学生関係窓口からのお知らせ

両キャンパスの学生関係の窓口対応時間は下記のとおりです。

窓 口	窓口対応時間
《品川キャンパス》 学務部事務室 (講義棟1階) キャリア支援センター (白鷹館1階) 《越中島キャンパス》 越中島地区事務室 (1号館1階)	○授 業 期 間 8:30 ~ 18:00 ○春・夏・冬季休業期間 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
《品川キャンパス》 入 試 課 (本部管理棟1階)	○授 業 期 間 8:30 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00 ○春・夏・冬季休業期間 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00

悪質な就活商法に関する注意喚起

各大学で、学生に対して就職活動を支援するためのセミナー等を企画し、高額な参加費を徴収する団体による被害が発生しています。

なお、参加費が無料である場合も注意が必要です。そのセミナー等がカルト団体の勧誘窓口となっている場合があります。

本学においても、近年、そのような団体に入会して脱退する時に苦勞した事例や、学内において強引な勧誘行為があったとの相談が寄せられた事例があります。

就活イベントの会場周辺では就活生の不安につけ込み、親しげに声をかけ就活商法の勧誘を行う者がおり、安易に氏名や携帯番号を教えている就活生も多いようです。



セミナー等の就活商法については、安易に個人情報を与えることのないようご注意ください。国民生活センターによると、就活商法の被害相談は、毎年100件を超えているそうです。

「被害に遭った」「意に反して強引に勧誘された」等の場合、遠慮なく〔相談窓口〕へご相談ください。

(品 川) 学生サービス課学生生活係
 (越中島) 越中島地区事務室学生支援係



東京海洋大学校友会について

本学では、平成30年4月1日に全学的に在學生、卒業生、修了生、在學生・卒業生の保護者、教職員、各同窓団体等の新たな交流を活発化させ、大学との関係を緊密にし、連携を強化することにより、大学の発展に寄与することを目的として、東京海洋大学校友会を発足しました。

同時に、皆様にご利用いただく共通の仕組みとして東京海洋大学校友会ホームページを設けております。

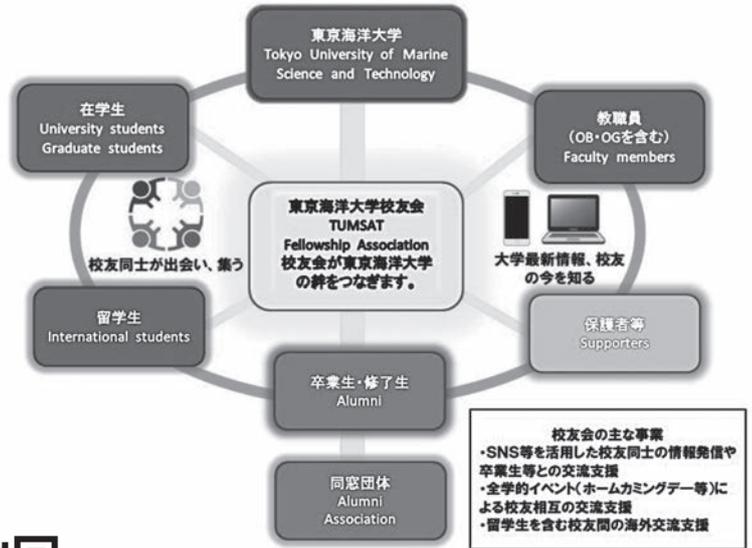
保護者の方についても、校友会ホームページより申請していただくことで登録できますので、ぜひともご参画をお願いいたします。

(登録及び会費は無料です。)

※一度付与されたログインIDは進学や卒業しても変わらず使用いただけます。

※校友会ホームページURL：

<https://koyu.kaiyodai.ac.jp/>



【校友会ホームページQRコード】



【東京海洋大学校友会システムでの登録案内】

保護者：新規登録をクリック→必要情報を記入して登録申請→校友会事務局からの承認メール到着後、ログインをクリックし、ログインID等を入力

○東京海洋大学校友会のできること

- ・「校友会メールマガジン」により、校友会や大学の最新情報をタイムリーに受け取ることが可能になります。
- ・校友ごとのマイページにより、学生の近況が確認できます。
- ・メールアドレスが分からなくても在學生等と「メッセージ」機能でやり取りができます。
- ・校友会が開催するイベント（総会やホームカミングデー等）に参加できます。
- ・「校友会枠」での練習船の見学等

また、本学卒業生を支援する同窓組織として「楽水会」「海洋会」があります。本学卒業生との強固なネットワークを築いておりますので、ぜひご加入ください。

楽水会：<http://rakusui.or.jp/>

海洋会：<http://www.kaiyo-kai.com/>

校友会に関する問合せ先：

東京海洋大学校友会事務局

電話番号：03-5463-0354

メールアドレス：koyukai@o.kaiyodai.ac.jp

掲 示 版

薬物の乱用について

薬物の乱用は、本人の精神と身体に危害を及ぼします。また、友人や家族関係の崩壊にもつながるなど、本人だけでなく、社会全体に計り知れない影響をもたらします。このため、薬物の所持や使用は法律で禁止されており、違反者は厳罰に処せられます。

薬物に対して安易な気持ちや一時の興味で接することのないよう十分注意してください。

盗難に注意

下記の事項を守り、自己管理を徹底してください。

- ・貴重品は、できる限り大学には持参しないでください。
- ・やむを得ず所持する場合は、各自でロッカーに鍵をかけて管理してください。
- ・鍵は安易に解錠出来ないもの（ダイヤル式など）を選んでください。

悪質商法等に注意

消費者契約等に関するトラブルが増加しています。うまい話には要注意です。少しでも疑問を感じたら契約しないでください。また、身に覚えのない請求などは支払わないでください。

訪問販売や電話勧誘販売など、特定の取引の場合に、一定期間内ならば理由を問わず解約できるクーリング・オフ制度があります。もしも被害に遭ってしまったときは消費生活センターに相談してください。

カルト団体等の偽装勧誘に注意

キャンパス内において、自らが宗教団体であることを名乗ることなく、サークル活動や自主ゼミと称し、特定の反社会的なカルト団体に引き込まうとする「偽装勧誘」の事例があります。

声を掛けられておかしいと感じた場合はキッパリと断り、安易に電話番号、メールアドレス等を交換しないでください。また、不審な団体と感じたとき、あるいは勧誘活動を受けた場合は、下記まで知らせてください。

- 品川キャンパス：学生サービス課学生生活係
- 越中島キャンパス：越中島地区事務室学生支援係

飲酒についての注意事項

(1) 未成年者の飲酒は法律で禁止されています。

アルコールには麻酔作用があるので、未成年者が飲み方や適量もわからず無理に飲むと、急性アルコール中毒を起こしやすいといわれています。もし、誰かに勧められても、きちんと断ることが大切です。

(2) 飲酒の強要は絶対にしないこと。

未成年者やお酒に弱い方にお酒を強要することは絶対にしないでください。

(3) 飲酒運転は厳禁です。

「道路交通法」では飲酒運転のほか、飲酒者への車両の提供、運転者への酒類の提供、飲酒運転の車への同乗についても禁止されており、厳しい罰則が課せられます。

